

91
10
39

準貴

室永五戊子年

公義波御上

四

正徳二壬辰自述

室永子戊子年

公義文仲上



五

正德

二壬辰

仁ノ部

沙多以事... 所地...
... 以家... 者... 如...
... 刻古... 律者... 所... 道...
... 後... 曹... 年... 及... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年... 年...

同二月十二日
宗對馬

七版 抄換...

- 一 通... 別... 三通
- 一 深氏... 三書... 三通
- 一 以上書... 一通

信... 大... 通... 同... 年... 深氏...
... 年... 年... 年... 年... 年...
... 年... 年... 年... 年... 年...

活用書法

一 五言古歌

一 漢氏口上平真奇起一書對

三 通

一 口上平一通

一 五言古歌

中詩思法

一 口上平一通

長列之內次在浦上通起一辨辭

送布の付送礼曹年改五言古歌

一 口上平

五言古歌 内浦浦上通起一初節人送布

の付送礼曹年改五言古歌

一 口上平

五言古歌 内浦浦上通起一初節人

送布の付送礼曹年改五言古歌

別幅

五言寫一上卷一書封

書列一曰從法博一曰深志一曰辨人
道在公財從法曹一曰攻逐敵天
別幅寫

口以

口以 曰深志一曰深志一曰辨人
道在公財從法曹一曰攻逐敵
并別幅寫

口以

口以 曰深志一曰深志一曰辨人
道在公財從法曹一曰攻逐敵
并別幅寫

德民一書一上卷一書封

口以 曰深志一曰深志一曰辨人
道在公財從法曹一曰攻逐敵
并別幅寫

西流の内流流に流るる胡人
に上書送案并其物書付
日記

石列の月屋流河に流るる胡人
人の上書送案并其物書付

西永三成ノ十月

石列の流河に流るる胡人

胡人上書送案并其物書付

一、秋、後胡人國より高道に
東流るる浦に流るる胡人
十月九日地正より用事
人数六人、上書送案并其物書付
石列の流河に流るる胡人
大風俣橋候し其物書付
十日自午、下流長列河
郡須法浦に流るる胡人
浦人の上書送案并其物書付

その物と云ふ丸揚と下其土産
成すより糧米を海氷に於て
成すまでよりし城下と云ふ
候より浅きとに付難有は公
事ある候に後并に其意也
長満より長道と云ふ同共八
中城下は余りとい道中際
外村より領家より二り六の長満
と云ふは公候に事なり候夫

別らと云ふ流より潛入と云ふ三月
廿八の長満出は高年二月
晦日封列と云ふ是は公事
進る由中一之形中一と云ふ
候付事と云ふ難有と云ふ

一 我 高年四月の長満に銀音
新造と云ふ中一

深民と云ふ蔵付

歳三十六 キムアイセン
 日三十五 ヲイサニイ
 日三十三 ハクマクグナミ
 日二十九 ソセグビル
 日二十一 ゴイクイゼン

如丹子病也

一 江艘 候三十一日
ヒササキ

一 帆 三十一日
 一 檣 三十一日
 一 櫓 三十一日
 一 櫓 三十一日
 一 舟 三十一日
 一 舟 三十一日
 一 舟 三十一日
 一 舟 三十一日

- 一 砂平の物き
- 一 比彦を扱
- 一 壺大由九
- 一 少桐を
- 一 舞のしや
- 一 くのぼり
- 一 由海古を扱
- 一 櫻川八
- 一 くのぼり

- 一 美奈の物き
- 一 比彦を扱
- 一 壺大由九
- 一 少桐を
- 一 舞のしや
- 一 くのぼり
- 一 由海古を扱
- 一 櫻川八
- 一 くのぼり

美奈の物き

比彦を扱

壺大由九

少桐を

舞のしや

くのぼり

由海古を扱

櫻川八

くのぼり

如澤若也... 昔海... 帆向
い月同女... 海地... 帆向
女... 昔法... 志は... 三月
女... 昔法... 如高年... 月
海... 封列... 昔法... 帆向
海... 中... 昔法... 帆向
海... 昔法... 帆向
海... 昔法... 帆向

一 我... 海... 帆向

新音新加... 帆向

海境... 帆向

歳... 帆向

日... 帆向

日... 帆向

日... 帆向

日... 帆向

日... 帆向

リフケニム

キムチユイナグ

リケム

キムタイウワン

キムイセン

アニイル

日二十九

キムチンカク

日三十

ニエウシエン

日三十一

カクタイマク

日三十二

カクイマン

日三十三

ヘンケムイブ

器具の事

橋

換也

梅

口也

櫓の床を換り也

床を換り也

形板大小六十枚也

友床を換り也

床を換り也

あゆみ板を換り也

友床を

柳心着刺大小

度りの床

一 菫の心

一 雪の心

一 雲の心

一 水の流れ

一 壺の心

一 月の心

一 雲の心

一 うさぎの心

一 水の心

一 梅の心

一 浪の心

一 柳の心

一 竹の心

一 花の心

一 松の心

一 空の心

一 雲の心

一 竹の心

一 菫の心

一 雪の心

一 雲の心

一 水の流れ

一 壺の心

一 月の心

一 雲の心

一 うさぎの心

一 水の心

一 梅の心

一 浪の心

一 柳の心

一 竹の心

一 花の心

一 松の心

一 空の心

一 雲の心

一 竹の心

- 一 新巻紙
- 一 薄巻紙
- 一 度下巻紙
- 一 汁下巻紙
- 一 度下巻紙の端紙
- 一 度下巻紙
- 一 度下巻紙
- 一 度下巻紙
- 一 度下巻紙

- 一 かきかき紙
- 一 巻三枚
- 一 子字の文三冊
- 一 子字

三ノ海白

宣統二年九月

乙卯四月庚辰補正一漢文

朝鮮傳境人呈書

一 我後朝鮮國古高道一曰
德川郡之居民之口之民之為
詢知其事之人數六人之數
沿同道之內寧海府之民

九月廿七日沙出物自十日
至十日廿日申申法存自十日
沙比法出於下如等十方
遭大風地方之備方下民
咸洋中一德國一上力石列
居人後浦上深島法可及破
換以如浦人可也一多浦島
水澤前物上之各揚一
其上之沙比之白龍島之

水戸新道より下流に少流に
流す能くは今年もあまら
我の長陵の上を流りて道に
い竹人馬に竹十人毎り
流にしき流は高年二月
河内中流に女二の村に
流はいと流急なる中
と夜もした村にそそ新
たは

一 我の宗るの年々
新音新かとしらとよ

深氏在りて

歳四十八 千ヤクサニニ

日 二十九 ゴンゾケニ

日 二十九 リニユバキ

日 二十九 リビリ

日 二十九 ハキズグセキ

同二一

一丁ニヤクキ

船具并寄物

- 一 船板大少拾四枚
- 一 重なる舟おき
- 一 圓形舟棹
- 一 舟具等
- 一 文庫
- 一 船具等

一 船具等

一 船具等

一 船具等

一 船具等

一 船具等

一 船具等

一 船具等

一 船具等

一 船具等

一、
嘉永六年三月九日

去々年朔節國々々封列
沃店
清貴君々々々々々々々々
手々々々々々々々々々々々
知々好々々々々々々々々々
しりりりりりりりりりり
た々々々々々々々々々々々

以上是

去々是出洋々々々々々々々々
清貴君様はははははははは
朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝
多々多々多々多々多々多々
新々新々新々新々新々新々
と々々々々々々々々々々々
公義一々々々々々々々々々

新半のハ源為朝臣の事
通に改定ハ源氏
之義ハ口前改定ハ新半載
ハ源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏
内中ハ源氏ハ源氏ハ源氏
源中ハ源氏ハ源氏ハ源氏
源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏
源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

二月九日

宗 封馬告

日記

一 源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

一 源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

一 源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

一 源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

一 源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

一 源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

源氏ハ源氏ハ源氏ハ源氏

中官... 上... 中... 中...
口... 中... 中...

許養君... 為... 漢... 胡... 鮮... 國...
... 對... 對... 對... 對...
... 中... 中... 中... 中...
... 并... 別... 幅...

... 中... 中... 中... 中...
... 中... 中... 中... 中...

書一

... 中... 中... 中... 中...

... 中... 中... 中... 中...
... 中... 中... 中... 中...
... 中... 中... 中... 中...
... 中... 中... 中... 中...

書の字上た記

目録

一 通 六

二 通 六

三 通 六

七 通 六

八 通 六

九 通 六

一〇 通 六

十一 通 六

十二 通 六

十三 通 六

十四 通 六

十五 通 六

十六 通 六

十七 通 六

巨海浦上唐之二艘漂流之法
海軍中尉以弟侯子如舟
山更又南東之海一人船三十
九人乘舟行方上海法出航
先備之海海一人年信之漂
若法中中候之對府之清
已備以多例重出初日由航
法中對人武人別船之集
打副長法中中候之對府之清

古船之
上之
心惟

六月二日

上之
林元
大少
井上

長崎以使交易感無涯矣今看客伴二人做當所報是

實

五月日

南京船主包子佩書判

萬曆乙酉年八月九日

法園より中へはるる南島胡船表
海民道より去後より海を渡る
七のり立流に去る中村氏八
境中法寺島一物道使却り
唐白一並に七のり海を
舟押出唐白に手掛り如月
多時七のり唐白より出火大船

諸君は漢方之教由之より其の
いふにさういふ事なき事なり
すおのりて其の事なり其の事
は上半に記

に上

胡餅由之為列より其の事なり
上之事なり其の事なり其の事
出火より其の事なり其の事なり

焼失法を其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり

其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり

八月九日

室永の戊子年九月十二日

壬午十一月十二日朝鮮由吉野道
蔚山へ表入一般家組は政
民回上守の要列の西湊浦に渡
漂ふに付所由は道中如
辰北曹と表入道中法を如
例に道
公義に上表としりて表入法を

と心算したるに

以上意

朝鮮は慶尚道蔚山へ表入
一般家組壬午十一月十二日政
民回上守の要列の西湊浦に
渡漂ふに付所由は道中如
辰北曹と表入道中法を如
例に道

澤氏口上書并其物一書付
お返す致矣上へ下へ

澤氏口上書

九月十三日

澤氏口上書

お別紙上

古道具口上書并澤氏口上書
部中書物一書付お返す致

先上へ

古料口上書并其物一書付
お返す致矣上へ

古用書物一書付お返す致矣上へ

古道具口上書

澤氏口上書并其物一書付一通

古道具口上書

澤氏口上書(一通)

古道具口上書

「五島并別幅」

「倭民に上書并其意也」

「口伝也」

「傳々上書」

朝鮮倭寇人口上書

「我、後朝鮮は昔より海内
蔚山、倭民より度々南平

十一月廿二日、人一般に倭寇の害

は、三果、倭中、我、遭難、以

地、方、の、清、高、と、及、箱、根、倭、洋

中、同、上、方、封、閉、倭、捕、と、源

を、法、に、

「我、後、帝、親、有、新、如、と、言、ふ」

倭民に上書并其意

歳三十一

キムラニナク

日二十八

キムケグズシノミ

日二十五

リサシノミ

日二十八

キムベレニロ

日二十四

キムズセニ

日二十四

キムクイセニ

日二十二

キムニシフギ

日二十二

エニセシウキ

船具并荷の

船一艘

長八身
横七身
深四尺

櫓二枚

帆二枚

楫二枚

櫓五枚

水筒六枚

あし

環

- 一 沂一挺
- 一 琴一牛
- 一 小刀一牛
- 一 石二牛
- 一 魚一牛
- 一 泊一牛
- 一 細一牛
- 一 少田一牛
- 一 心一

庚子月廿日

大北去望... 色... 上書

對列... 淺浦... 深志... 胡...
 只... 書... 真... 書...
 五... 書... 對

對列... 淺浦... 深志... 胡...

送府公封侯礼曹正人及在官天
别幅

“书物之致下、名号之立、高元、别幅、可、德、

封、初、曰、漢、浦、上、澤、总、一、初、鮮、人
送、府、公、封、侯、礼、曹、正、人、及、在、官、天
并、别、幅、字

室永成子年一月十六日

法、國、同、女、二、日、日、成、下、法、水、三、日、編
括、毛、方、一、日、日、成、下、法、水、三、日、編
法、書、封、一、通、之、七、日、十、日、一、日、日、編
口、用、着、大、久、保、加、賀、之、所、并、去、也
お、様、と、様、と、山、川、法、在、り、を、お、り、を
山、東、之、所、在、り、を、お、り、を、お、り、を、お、り、を

均持書月一法中其凡記

高年對別并紀前之月基錄
高年又高部法水換毛之記

一 田細子百百字或石余

内

田八拾石余
細子百百字十七石余

一 信家女百軒

一 地美百二十石百

七月廿六日對別換毛

一 田細子百百字或石余

内

田八拾石余
細子百百字十九石

一 例家女拾石軒

例家女牛馬一換之石

右之月廿二日基錄又換毛

右公持也... 九年八月

いよ

五月十日

宗 討馬

大科... 宗 討馬

宗 討馬

宗 討馬

大科... 宗 討馬

室永... 十年十月

去乙... 宗 討馬

一、高二十一人、一、如、亦、如、前、年、元
明、一、内、政、治、之、權、益、日、甚、二、方、日、進
一、内、政、治、之、權、益、日、甚、一、如、亦、如、前、年、元
治、嘉、村、一、内、政、治、之、權、益、日、甚、二、方、日、進
大、三、上、高、一、口、似、之、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元

一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元
一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元

一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元

一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元

一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元

一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元

一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元、一、亦、如、前、年、元

半成りし包の半付しるはに包の
七半成りし包あし上

昔別一日の浦平六腹一日堀湾
西湾一日海船村とて市と澤也
胡椒ノ口と半打具若物と半
竹の通 少半成り

少成りし包と飯支前とて澤及は共
一包とて半包とて飯支前とて澤及

いふよたにらる、飯方にも女一人
拙女にら半付の包文字も一書
女もと極く、お早、ら女、有
いふ海方にも半次一人、拙女、有
向後、お、ら、も、也、然、也、戸、候
は、方、の、ち、也、は、傍、へ、得、中、也、法
も、也、也、

(一書とて半包とて飯支前とて澤及)

いふよたにらる、飯方にも女一人

(一書とて半包とて飯支前とて澤及)

七尾お換之段

「シ安房守ニ書ハ并別帳ニ通

他安房ノ上書ハ「ハ」字津ノ

「徳民口ニ并其書也」書付

三通

他徳民口別帳ノ書ハ「ハ」口書ノ

九通了「ハ」

「長別ノ白ハ」浦平ノ白班

「清水清ノ白ハ」初村ニ上書上書

「為」朝鮮人ノ送而ハ付ハ江

「美攻ノ」必指別帳ニ通也并

「深民口ニ書ハ」江具ノ書也」書付

三通

「ハ」上書ハ「ハ」

「ハ」浮林ニ書

朝鮮海流ノ上書

「一」我ノ後朝鮮ニ書ハ「ハ」

亭海府之蒙民之口食之為穀
物湖人數十八人一以米之計云
三月九日在古西之口食之穀
之口耳海之中食之米計之如
計放任洋中一標同十二方也
測之內久は埔上海之口食之
子連海人之口食之米計之如
口食之米計之米計之米計之
或下高年之口食之米計之

清道布衣女之口食之米計之
同三月九日之口食之米計之
對州之口食之米計之
之口食之米計之
之口食之米計之

一 我之家名曰年之口食之米計之
新也之口食之米計之

海民之口食之米計之

歳二十

シシシズ

口

シムドソイ

口

リキムサグイ

口

リウサニイ

口

ニクサニイ

口

リクムスグイ

口

コシマクナムイ

口

アシカムサニイ

口

リタイイニイ

回

リクムイブイ

回

ハクノツセニイ

回

リセニイイ

口

キムリニイイ

口

ニムカイサニイ

口

リニエユニセキイ

口

キムクイホグイ

口

ニムカグノニイ

口

キムキムソイイ

船具并前也

一 船一艘

七十八石
幅四尺
深四尺

一 橋二枚

一 帆二張

一 楫十挺

一 碇二

一 舟八隻
舟一舟

一 碇二張

一 細川二艘

一 水筒三枚

一 葦、板、大、小、板

一 阿、方、の、板、二、枚

一 葦、三、枚

一 葦、九、枚

一 不、こ、こ、也

一 芥 一 挺
一 新 一 挺
一 齧 一 巾
一 通 一 挺
一 捲 三
一 赤 汗 巾
一 桶 二
一 谷 二
一 徳 刊 二

一 壺 大 巾 二
一 うちきりすし七
一 かひの 櫛 十 九
一 同 奈 野 櫛 十 九 巾
一 同 着 一 襪
一 少 利 大 巾 十 三
一 笠 七
一 巾 十 十
一 ちりてぬ

- 一 改申二十
- 一 後川十七
- 一 去元二十二
- 一 反呂六八
- 一 後一及
- 一 是或六九
- 一 小刀二
- 一 出十記
- 一 後之也九百

一 後籍口拾及

以上

子二月八日

朝鮮增城人口定書

一 我、後朝鮮國今所通、也
 海島縣、者民、口、在、力、商、賣、
 人數、二十、一人、一、以、示、但、去年

十月十三日在河出江元清の事
この城の戦ひは三月十三日敵
軍の海軍の回中八分五分頃
現清の海軍は早稲浦
へ退き去りた今抱はる艦台
糧米水の給ふに及ばぬ事
長濱の之を運ぶに及ばぬ事
此は河出の事也三月九日長濱
に退き去りた今抱はる艦台

長濱退き去りた今抱はる艦台
口海軍の之を運ぶに及ばぬ事

一 我々軍の口海軍の事
報告 頼如人等の中

深氏名義付

歳中

コウセイフワリ

日中一

キムワルセシ

日六十一

キムトククイグ

日五十一

リマニ

日四十一

ニラクセグナム

日三十一

ムンサンニヨク

日二十九

リマニニシ

日二十

キムサンニエシ

日二十一

サセンウシ

日二十二

キムトクトク

日二十三

カグクム

日二十四

イムカグソイ

日二十五

ツガサンリブ

日二十六

ハニクイナル

日二十七

バキバク

日二十八

リイルトグ

日二十九

ハニチエシバク

日三十

コウニキグミン

日三十一

カグイニヨシ

日三十二

リヤグニシニ

日二十八

リヤクサニニヨシ

船具并所也

一 船一艘

長カヨクニヨシ
横カヨクニヨシ
船口ノヨシ

一 橋二枚

一 帆二張

一 棹一対

一 櫓五枚

一 水掉五枚

一 棧二

一 碇八房

一 蓋七枚

一 罽巾二

一 芥子五枚

一 所二枚

一 湫二枚

一 滝大由一挺

一 かしこ七挺

一 草かき三十挺

一 焚ききし

一 ちきりの三挺

一 ちきりの三挺

一 ちきりの三挺

一 少柳三挺

一 本沖三挺

一 体大由三挺

一 星上三挺

一 湯大由三挺

一 かのりの三十九

一 口廻三挺

一 口廻三挺

一 口廻三挺

一 口廻三挺

一 口廻三挺

一 臺大小七

一 四大小八

一 茶碗大小八

一 猪口十四

一 地巻二枚

一 羽根七

一 口角大小十四枚

一 薄紙百十枚

一 楨三十枚

一 薄六枚

一 小刀五枚

一 笠二十六

一 手巾二枚

一 櫛二大小二十枚

一 着物二十三

一 袴六枚

一 草履十四

一 袴八枚

一 常山小抄

一 蕭道云

一 布衣云云

一 水口十三卷

一 信法切也十卷

一 布衣云

一 云生口端

一 口切也

一 步深云

一 步深切也

一 斗物二册

一 粉卷大小二

一 白米大小

一 子

一 子

初解澤西人

一 秋、長初解也今所道一

お早やしいと云ふこと、先般の如
くお入の言はれ、白米の申、
口邊の事、高行のり、昔法如
去十七日封引し、先法は、
意の中、之の中、後、口邊
に付、能方、先、大、
外、女、
左、
先、
先、

口邊の如く、
先、

一、我、
口邊の如く、
先、

漢民必平集付

歳日十八
口三十日
口四十五
ハニウシ
カクウニキ
ヤクウイユス

日二十六

リゾブ

日二十七

トリユモグイブ

日二十八

カグトカテラ

日二十九

シヨイトリ

日三十

ヘンガ

日三十一

キムホシイラ

日三十二

カグムニアニ

日三十三

カグハイミン

日三十四

キムイルウニ

日三十九

キムラツシ

日四十

サイイル

日四十一

リイルア

日四十二

ハニタイス

日四十三

ヤグシエニク

日四十四

テグイル

日四十五

キムシヤグワ

日四十六

リシヤグイ

日四十七

カクイ

日十六

テムニヨク女

如具并考也

一 増二様

一 江津坂大正百三十七年

一 由信考也六十

一 蒲葦一

一 後川廿六

一 菊三考也

一 即中口

一 辰子一巻

一 由信十考也

一 由信三考

一 由信二

一 由信一様

一 由信考也八

一 由信考也廿六

一 かのの考十

一 鴻二

一 筆之法

一 大者之法

一 筆之法

一 扇一

一 扇一

一 扇一

一 洞卦一

一 祥一

一 少力

一 紙十

一 沈一

一 筆一

一 海二

一 芥六

一 秋二

一 沂一

一 鞭三

一馬中一

一柳三卷七

一物六卷

一系一卷

一心上

子 二月廿日

古札在知... 池一通... 矣... 矣...
古半包...

長列... 清浦... 初群

口上書... 其物... 未付

平... 初群

口上書... 其物... 未付

口上書... 初群

口上書... 其物... 未付

清... 未付

平... 初群

送西の村送北曹と多岐五福美

別帳

昔列之内の心は浦と遠くは朝冠人

送西の村送北曹と多岐五福美

別帳

西流の心は浦と遠くは朝冠人

送西の村送北曹と多岐五福美

別帳

伊太様と秋上と名取と別帳と書

宝永の戊子年正月一日

福年一過しと名取と別帳と書

伊太丹の心は浦と遠くは朝冠人

八高と名取と別帳と書

山川は名取と名取と別帳と書

ころころと名取と名取と別帳と書

夜と名取と名取と別帳と書

夜と名取と名取と別帳と書

お渡りお返りはまた記

一切支丹宗門従前之御意不
にお返りし先年之御出立
法度書に送付お書に於て
在り候へども此の御意
一古切支丹に於て候へども
此の御意に書女御に於て
候へども

以て記敷候へども此の御意

一御中書に於て候へども
申し候へども此の御意
お書女御に於て候へども
申し候へども

以上

寛永六年壬午九月廿九日
宗不封馬四景判

持田守中書

竹込公家為直 〇〇〇〇

竹込家為直

横田家為直

古料の送り状の宛

寛永十三年二月晦日

口紙の書きし宛に、さし送りさす
半付の差を、お下振りの、此の書付
大口目付宛に、いふ、早掛の能
方しい、対力の、差をとる、を、此に、送
ち、及、書、の、及、口、紙、を、中、に、お、送、り、さ、す、自、分、の
横、田、家、中、に、お、送、り、さ、す、は、の、如、書、に
お、送、り、さ、す、と、申、さ、す、に、お、送、り、さ、す、

言及るよむ新上物半付く其旨
此中一治方と一新上物後
半付とらうのうらむ旨向海は意
不及もたの半付しりく其旨
の旨向に別の方より得る中
うらむ旨も一とらむ旨
意の旨は後とらむ旨
うらむ旨の半付くもらむ旨
りし旨とらむ旨は初日

年中一新上物半付く其旨
此中一治方と一新上物後
半付とらうのうらむ旨向海は意
不及もたの半付しりく其旨
の旨向に別の方より得る中
うらむ旨も一とらむ旨
意の旨は後とらむ旨
うらむ旨の半付くもらむ旨
りし旨とらむ旨は初日

年中一治方と一新上物

新上物

一治方

一 今馬代

西馬代

一 清大刀

一 今馬代

右年始。我上法。

清中尾

一 清幣子二

一 清單物二

西馬代

一 清時後代白紙五枚

清是物上

一 白紙三枚

清是物上

一 白紙二枚

右馬代。我上法。

清中尾上

一 清大刀

一 今馬代

西行巻上

一 清吉

一 馬代

古八朝 井上法

清吉巻上

一 清吉

西行巻上

一 清吉

清吉巻上

一 清吉

清吉巻上

一 清吉

古八朝 井上法

清吉巻上

一 清吉

西行巻上

一 清時海代白紙十枚

清時海代

一 白紙十枚

清時海代

一 白紙三枚

右藏書 執上法

清時海代

一 清時海代

一 清時海代

一 清時海代

一 清時海代

一 清時海代

一 清時海代

清時海代

一 清時海代

一 清時海代

清時海代

白紙十枚
共十枚

一白絹十枚

汗巾十枚

一白絹七枚

右手縫汗巾十枚

汗巾十枚

一菜豆粉三十斤

西布九枚

一古貝粉

右手縫汗巾十枚

汗巾

汗巾九枚

一鹿海三枚

一飯子十卷

一菜豆粉四十斤

一呂布一箱

一干朝一箱

一少粉一箱

西庄尾上

一 呂布 一箱

一 于朝 一箱

一 法行 一箱

右均法 時由元古 以使末
抄上法

法中尾上

一 于朝 一箱

西庄尾上

一 古回 一箱

右均法 時由元古 以使末
抄上法

法中尾上

一 于朝 一箱

西庄尾上

一 古回 一箱

一 古堂... 氣力... 同... 城...
一 古堂... 氣力... 同... 城...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂... 氣力... 同... 城...

一 古堂... 氣力... 同... 城...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂...
一 古堂...

一 古堂... 氣力... 同... 城...

一 古堂... 氣力... 同... 城...

一 古堂...
一 古堂...

一 出洋の巨額十

西暦九七

一 七月の

右に國に府に、毎歳二月に
執上法。

一人

右に毎歳七月に執上法

右に通新に在りて以上

三月朔日 清名

七料紙より七半紙まで、健く書

上書ハ 年中執上物、書付

上の包より紙一枚より七半包まで

又、上より、後如右半竹の如く

素紙の包より、紙宗封馬と

半載

別紙より切減、如右の如く

帳面抄源氏云

是

し事射く事し法曰説分執上仕
い思く其急事し法是是執
上法

い上

三月朔日

宗對馬

右より古事半半切事の思上云云矣

後より古事書色に上事

是

宗對馬

日年三月廿日

古事書抄法摘子女の事
如先例胡群云云
古事書抄法摘子女の事

浦の波多好公府内旦之奉
沙封面女遣之妻回つるに与
先酒海に依お列候に事上
格に比白の事より中事討候
以上書お思しと毎日之妻女事別格
持し事一と奥田に懸たれと
面談は達し清耳と下下候
中事達事討お渡候長事海
中事候に事中人妻回日候に記し

別持事一と事討た記し

以上一と記

封馬事一中上白氏夫
嫡子成し力家後女乞別封
是より訪友高使事海
其り事貴後封洲古地事浦
新事記封府旦事海
封西は遠うこと中上白氏夫

東洋の海軍の発展と中米の
関係の発展

清書

二月廿日

松村 兼次

奥田 忠一 宛

右の通りお別れの口布の中上白紙
の刺繍は口布の如く

お挨拶の紙の箱蓋は如く他は
口布の中上紙、三月十日
お別れの紙も如く在り要同
じ色紙等と云ふ紙は在り
口布刺繍は如く口布の如く
下等古紙と云ふ紙は在り
口布刺繍は如く口布の如く
口布

口上紙

對馬島は倭島子代嫡子女
為に如故に定例朝鮮に古
對馬島の方より次府と津島
四流共日一重矣故舊別作
此系と浦上流と定例に善府
只より津島對面は近き細
了中より古より致すに打換と
中より善府に對馬島の方
中より津島對面は近き細

中より古より致すに打換と
いれりしは英國より古より
津島對面は近き細

津島

三月十日

津島島長志

加賀より後し集上りて
吉村長長為りて年高き連州
お流下知別り申上りて
如りて幸りて申上りて
口史りて上りて年高き連州
口信州口年高き申上りて書
多りて申上りて

口上書

對馬守中上りて申上りて
昨春より代後去りて年高き
走りて申上りて
私去りて年高き申上りて
申上りて申上りて
辰刻申上りて
申上りて申上りて
申上りて申上りて
申上りて申上りて
申上りて申上りて

書翰 天上一の妾 田中中
上心一

中衣也

三月十九日

山川紀行書

法用書 次十一面

お換ち 次十一面

△ 夕張と云ふは竹口子入 舞臺
妾 田中中 中一上

日年 三月廿三日

常憲院様

貴店に 帳目迄

例 朝鮮国 礼曹 判官 次

法使 君より 行書 封書 二枚

お換ち 帳目 中上 奉書 二枚

由 書九 封書 二枚 下 封書 二枚

お認と 封書 二枚 封書 二枚

おし 奉書 二枚 封書 二枚

西漢書後口上書與之記

一曰自序無禮。及記胡鮮妻
傳中亦云。曰之也。中云
抄書今亦復海海。及序後
如身身下如法及法也
中云統
之義。及之也。及之也。及之也
中云及之也。及之也。及之也

比のあ達と対しとり古同前相
別れと英とと英と書付た
記

口上竟

書一憲院係は地

豊後へは胡鮮國は英と云
如之例礼曹と判し以建者
中云及之也。及之也。及之也

方より尸城いにと

清在日

三月廿六日

北村、采女

上料より礼表半切、お恩

朝鮮國より反送、意

只今、山采女、市姓若趙在、志

去、辨、歳、の、十、六、の、日、の、夜、の、由、ま、
敷、多、く、有、り、四、男、子、九、人、又、十、
或、人、た、中、の、嫡、子、に、長、く、お、知、り、
申、し、た、子、に、此、之、年、の、人、あ、り、也、
尚、年、一、年、の、采、女、は、雙、人、と、道、
いた、事、も、采、女、に、お、し、ら、れ、た、積、
り、又、一、別、後、に、金、十、と、大、子、
の、一、つ、ら、し、底、に、有、り、と、一、眼、の、
采、女、を、と、り、た、物、に、お、し、年、を、と

太子、大傳と何異姓、禮文
皇帝、外舅と稱、外皇帝
也、右は、臣人、皇人、族と
一、徳力、及、謀、反、と、在、下、皇、
古、歌、河、の、名、有、こ、の、外、
舅、と、稱、す、法、格、公、好、す、有、
徳、白、我、中、の、人、別、太子、と、入、心、
と、中、封、食、と、後、有、共、外、舅、
并、皇、人、西、人、と、首、と、創、法、事、

新、皇、の、封、朝鮮、と、後、高、
正、月、の、勅、建、又、也、長、の、侯、
朝鮮、と、り、二、三、月、の、也、事、
以、傳、高、勅、遣、一、賀、と、也、長、
い、中、朝鮮、同、事、の、後、也、法、
い、伝、所、地、と、皇、重、の、家、也、
中、城、の、と、存、の、後、の、法、也、
お、年、下、如、古、の、也、中、の、也、
と、長、と、の、也、
と、長、と、の、也、

若上...
若上...
若上...

二月廿日
宗對馬

古料...
古料...
古料...

朝鮮國...
朝鮮國...
朝鮮國...

室永...
室永...
室永...

昨夕...
昨夕...
昨夕...

若方院...
若方院...
若方院...

本竹ていふは全い之を別辨は
境下馬北建者也
清城より北に打見の法下馬北
に及境

と義の建は女に及る由も
くま建は女に及る由も
うくまを下馬北に及る由も
この建は女に及る由も
封馬を北の由に及る由も

中入下通は使はせ終り河は
常流の河もいふ事の中
是の日数通はた末の通
口は通の流下村名と抜きた
限中を通下増は、お控の中村の
りし通の村をいふ封馬を
中入の通は女田の中入の中
くま建は女に及る由も
お控の中村の
りし通の村をいふ封馬を

新橋と東口の次川瀬橋ゆへ
お渡りの上半た記

に上

一 今朝の家路一志の志

慶育院塚

常憲院塚に代は及事候

は、悠希原、幸村、善出、候

比り良也、候、候、幸村

首首と培、候、下、候、候

先、信、始、お、考、て、是、上、候、是、門

法、活、矣、急、也、り、幸、村、の、名、也

一 朝鮮境、下馬、北、考、一、地、沙、日記

申、也、候、上、馬、北、考、候

公、成、の、建、之、由、候、一、白、建、之、由

候、一、申、也、候、上、馬、北、考、候

北、考、候、建、之、由、申、也、候、上、馬、北、考、候

口上り也、申、也、候、上、馬、北、考、候

平の和服、ふらふ製はと建
屋の暖外、と朝鮮は台階と
建、日本、人暖外、援、此、不
法、建、平、外、外、北、建
是、後、中、た、た、大、少、清
た、中、た、た、た、た、た

只月女也り

宗封馬

大料女也半也のと、色、女、治

海女半色は

古屋に、書、ワ、光、次、と、故、治、大、為
と、心、美、と、女、能、造、竹、と、用、人、川、康
海、女、と、心、不、治、金、と、心、不、網
中、と、心、不、美、と、心、不、少、半、竹、と、心、不、
中、と、心、不、送、妻、同、と、心、不、知、同、も、と、心、
お、物、と、心、不、わ、と、心、不、お、子、と、心、不、入、と、心、
中、と、心、不、治、と、心、不、お、

乙義信日記にお見えなす今朝
中へ進みお控さる御侍下左侍等
中へ退き申度い御侍等
清城下後新持と集り左侍日記
お見え申す文句一行申降下
御侍等御物々中へ竹免角等
より中へ御侍等御侍等
中へ進下御侍等一行降下
御侍等御侍等御侍等御侍等
御侍等御侍等御侍等御侍等

御物々御侍等御侍等

萬永正徳七年七月十八日

去る七月十八日朝朝朝朝朝朝
東条東郡谷山浦天日郡所
高木一高木一教十一人一事
宗祖八人中百と叙及日吉
對列高木文高木浦高木浦高木八月

十一自昔為高道在東部郡
侯氏十一人亦一艘之船以日言
對列新浦上保名法公之志
艘是之去年一物道法之頃
所胡船法之之道而之受
長以曹之善後以是編之
乙類之之善之入之及之公
之自之善之入之及之公

口之之

胡辭之之高道在東部郡
之海并同郡也川之商人十
一人之也一艘日郡之川
侯氏十三人亦一艘之船以日
十一之之船以日之之之
之自之善之入之及之公
保名法公之入之及之公

道而くは長記曹と名
を名に本はいつく徳民に上
并如身並物一半竹お原
と方より上と上

竹葉集

七月十八

心川記

大料のちやまき物この海に
書

口利書

一少通

一海民の上

一或通

一但は半竹の一也之紀去
一其故海に半竹包
一其半裁方一也
一此の色と了
一上長(包)と

出帆法は如何なるに依りて其の
清きい故に其の故に其の上り下り
折れ付に反して海邊流は如何なるに
志すや而も浦より海邊流は如何なるに
之を食はば其の故に其の故に其の上り下り
水も其の外に流るるは如何なるに
日中の日影も其の故に其の故に其の上り下り
すべし
一 残りの字も其の故に其の故に其の上り下り

記言新如と念す

深民衣并歳時

歳三十一
日六十二
日六十六
日六十七
日六十八
日六十九
日七十

キムチケギ
キムニヨギ
キムトナギ
キムイツトヤギ
クツセシゾギ
ソイテガシギ

同三十八

テグシエキリ

口三十一

ハキバライ

口四十六

キムトラニイ

口三十三

リトウザリ

口三十三

ハキインセコ

新真の天行物

一 江一艘

長サ十四尺三寸
幅三尺二寸
深サ七尺五寸

一 舟百一艘

長サ三寸
幅二尺二寸
深サ一尺一寸

一 橋或中

一 帆或池

一 棹或板

一 舟或板

一 舟或板

一 舟或板

一 舟或板

一 法心口車

一 由海心新法流

一 芥子只挺

一 沂沙挺

一 派去採

一 樵去採

一 漁去採

一 穀去採

一 泥去採

一 度丁去採

一 小刀三寸

一 布一尺四寸八

一 由海心法十

一 布一尺四寸

一 線一尺十寸

一 線一尺四寸

一 畫一十

一 法心口車

一 焼丸磁舟

一 貝四さま

一 茶匙十ち

一 子の沖き

一 打菊き枝

一 主わらりき

一 糸ね瓶びん

一 桐き

一 漆し

一 十じゅう

一 ぶぶ

一 湯ゆ

一 根ね百ひゃく

一 板いた八はち十二じふに

一 枝えだ七しちノの花はな

一 杭かき 西にし 東ひがし

一 七しち

一 筆ふで 袋ふくろ

一 波二波

一 中总八

一 巻ノ巻ニキ

一 加白ニキ

一 英子取

一 梓八挺

一 子取取

一 心

子 八月十九日

封列新浦ノ海ノ初歟

口上書

一 我後胡群は其のち(辛)業託
 南川ノ漢民ニシテ其ノ人数十
 二人一船ニ乗リ八月十日力漢
 十里後沖ニシテ其ノ如西民
 二十成地方ノ海ノ方ニ及ニ
 十上場海ノ方ニ及ニ

いふ難哉及冠後以は浮流
いふ一曰中三才新埔ら浮流
いふ如浦人々如之能くは
稲米水がたつて外は海色に
は竹同す少の所は是は難者
たぬ

一我の家名は後四年の如き
銀青の如しと念中し

澤民長壽藏付

第百十又

ラニボロナミ

百四十

ラニセニイ

百三十九

ラニマシセキ

百三十一

ラニシヤキ

百三十二

キムクムセニ

百三十三

ハキナヤムトキ

百三十四

キムナニニゴ

日二十三

キムシエメギ

日十九

フシイルヤギ

日二十七

キムボグシヤギ

日十九

リムキルボギ

日十八

アニマグナイ

日二十九

ソイセニバク

真并の物

一 江一艘

長サ六尺
横一尺三寸
深サ三尺

一 橋式車

一 帆式池

一 樽式酒

一 樽式提

一 水竿式提

一 湯三層房

一 可了式提

一 新式提

一 鬘式提

一 樵とく入り

一 小刀とく入り

一 石とく入り

一 魚とく入り

一 虫とく入り

一 同とく入り

一 巾とく入り

一 かのとく入り

一 口とく入り

一 若とく入り

一 茶とく入り

一 壺とく入り

一 竹とく入り

一 柳とく入り

一 虫とく入り

一 英とく入り

一 虫とく入り

一 浮とく入り

一 樵とく入り

一 小刀とく入り

一 石とく入り

一 魚とく入り

一 虫とく入り

一 同とく入り

一 巾とく入り

一 かのとく入り

一 口とく入り

一 若とく入り

一 茶とく入り

一 壺とく入り

一 竹とく入り

一 柳とく入り

一 虫とく入り

一 英とく入り

一 虫とく入り

一 浮とく入り

- 一 浮舟
- 一 算
- 一 板
- 一 白
- 一 徳
- 一 下

心

八月十九日

大北長... 徳一...
 ころちりき色... 上... 通

對... 内... 志... 浦... 係... 納
 群... 口... 上... 書... 案... 并... 以... 具... 為... 地...
 對... 内... 氣... 浦... 係... 志... 納... 人
 口... 上... 書... 案... 并... 以... 具... 為... 地... 付
 口... 上... 書... 案... 并... 以... 具... 為... 地... 付
 口... 上... 書... 案... 并... 以... 具... 為... 地... 付

封州内志多前浦新浦高可原
志一胡群人送而公封送昔年
識五路并別幅

此一以書

但お撰方撰口意意公大く馬意法
或うと半也ノ封州内一
半付

宝永六年七月廿八日

去年三月廿日封命と海梅
江安高江口日守封州也世
弓日胡群志口の志公行書書
一古連此口信此と七日十八日
四日と出山江江古志と公志也
一書書取取と公志と公志也

四境發海海の朝鮮は、
古史の宛中、對善の如く、
對別如くあり、海地、
對善の如く、法の中、
對善の中、之れ、
對善の中、之れ、

七月二日

口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口

法光中、

口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口

七、

口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口

古史の宛中、對善の如く、
對別如くあり、海地、
對善の如く、法の中、
對善の中、之れ、
對善の中、之れ、

のふか中 城守中 口口之事 とい
くは 古 地 所 方 とも 其 心
付 け ず

後 採 り せ る 日 所 地 上 事 為 成
あり 誠 在 此 事 中 事 公 事

清 宗 公 馬 之 後 此 日 事 公 事
事 事 内 乃 也 日 事 事 事

玄 比 訓 辭 事 功 事 事 事 事
し 事 事 事 事 事 事 事 事

事 一 事 事 事 事 事 事 事 事

四年 事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事 事

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

一、...
二、...

高永成、...
一、...

其為... 數... 八... 一...

馮... 漢... 府... 南...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

一、...
二、...

一、...
二、...

...

但之んお摸と祝の目と祝の目と
かたの口書と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と

お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と

お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と

お祝の目と祝の目と祝の目と

お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と
お祝の目と祝の目と祝の目と

松子お屏、下如甚、博以二十八人
京六日、日、所地、物、音、海、上
海、海、一、刻、送、風、こ、う、漂、走、は、由
中、信、一、博、人、分、弘、力、を、お、副
保、志、回、六、六、日、共、信、也、中、の、書、大
道、考、通、中、一、改、と、十、二、万、三、割
也、反、中、注、如、知、下、七、日、と、書、衆
口、上、中、寫、者、上、一、上、注、便、為、注
書、也、如、此、の、夜、公、也、博、博、也、云

七月廿二日

七、五、月、換、号、次
出、康、法、波、号、次
秋、之、信、馬、号、次
七、身、作、智、号、次
大、久、保、如、賢、号、次
丹、上、之、信、号、次

口を閉じし信の事なり。其の事
は、
と云ふ事なり。其の事なり。其の事なり。

口上

六月十六日南紀一雙對行漢浦
漢浦は、
以事決、
六月十六日南紀一雙對行漢浦
漢浦は、
以事決、

中、
漢浦は、
以事決、
六月十六日南紀一雙對行漢浦
漢浦は、
以事決、

漢浦は、

八月廿一日 八川 漢浦

「
記
」

臺灣船主洪亮官本船於五月八日在船至六月初
二日開駕要往長崎貿易並未到別處因風不
須船中無水今收在此處本船裝載絲綢糖皮
等貨並無違禁藥材貨物矣仗通船共三十八人
船橫二把半長直十二把合具情由伏乞

上聞

寶永六年己丑六月日

臺灣船主洪亮官具

「
右
」

對川編浦上深急法
記

日年十月十三日

此
記

柿小裏の抄は流し長沙に流るる也
抄に長十百石以下は換り長力
抄馬代買の一枚長十百石以下
半付の長は長力
女流 長十百石以下は
換り長力
長十百石以下は換り長力
以上半抄は長力
長力古抄は長力

口上書

柿小裏の抄は流し長沙に流るる也
抄馬代買の一枚長十百石以下は換り長力
以上半抄は長力
長力古抄は長力
其の長力長十百石以下は換り長力
抄は長力長十百石以下は換り長力
女流 長十百石以下は換り長力

古くは中上は如く扱へば
十石石以上は扱へ

禁裏上は沙太方は馬代英令

二枚 如所は白紙十枚紙上は白紙

一枚は白紙十枚紙上は馬代

と云ふ枚

如所は白紙十枚紙上は白紙

一枚は白紙十枚紙上は白紙

一枚は白紙十枚紙上は白紙

古くは中上は十石石以上は扱へ

一枚は白紙十枚紙上は白紙

一枚は白紙十枚紙上は白紙

一枚は白紙十枚紙上は白紙

十月十三日

沙着

江米長本末

古料如所は白紙十枚紙上は白紙

一枚は白紙

日年十月廿一日

南

常憲院様迄法事又
將軍 殿下 射高方及大
大教の御支所大為取方
くしく高罪神ころに
おるに御免に申す
元上りの御方と申す

御免に人教たし
とり大目付他名
たふた思持し

是

御免に若

捨人

内之人を料
奴の中

内八人

右の邊に 沖法軍の兵
上の上

七月十六日 宗討馬

免

左の邊に 一人

一人 儀形に 古の

口の人 他の上 受の

右の 將軍 部下 行の
の上

八月廿九日 宗討馬

右の邊に 半の
半の 上 書の 半 討 宗
討馬

右の邊に 一人 数 馬 討
討馬

日年十一月十日

の刺書はたえ地馬の段に山田御前
と云ふ名に刺人如古に在りて
沙高女家 治代に胡蝶由と
と書

治代書に又字に多九に云はれ
るに治代に中して治代と云ふ
はと云ふに云はれし事知らし
る事

久松の治代書に高に中して
胡蝶の中にも中して治代と云ふ
古の治代書に治代と云ふ

治代に書

治代書に又字に多九に云はれ
るに治代に中して治代と云ふ
はと云ふに云はれし事知らし
る事
山田御前と云ふ事如古に在り
て治代書に治代と云ふ

いふことありしに
國々より名をいふ
の事ありしに
と申すことありしに
と申すことありしに
と申すことありしに

いふことあり

清商家 清代、朝鮮由きた
清の 清商家よりいふ事あり

清身よりいふ

清代よりいふ 清商家よりいふ

お知の事あり

清商家 清代よりいふ事あり
清商家よりいふ事あり
清商家よりいふ事あり

清商家よりいふ事あり
清商家よりいふ事あり

口年十一月廿一日

徳に縁より朝鮮由りて

四月海に日刺りて

沖朱車より 海馬 古文子より

りて長くもなる海に中より

此為

十二月十日

山川記人

古高田より一七二年中包りて書

口年十一月廿一日

年十一月

口年十一月廿一日

去年十一月廿一日

深谷より朝鮮人海に

舟に副副船由りて

江有るより及し

乙義うらた去村今二十有
とるを若山川に在りといふ
たに祀し

以上之

朝鮮国豊尚道に日昌原
者一人一組を組去年十月
女三百餘人洋中を以て
及砂埃七人白子人樹死に

二人を好澤に女有同女有
り別は日西村に於て深き波
地に名を垂る事ありて
り別は副傳に於て此道
布衣社曹に多敷とありて
名を以て深民に上り申す
高知に書付おぼしめし去

以上

十一年

山に祀る

古料の帆衣と切紙と色紙と
二つと半包

口刺書は之世馬と紙に

一 清五輪二紙

一 漢氏口上書并刀具等物

半封一通

紹興地獄口上色紙帆衣二紙
上二枚と色紙半封

右列の内更村下清の船
口上書船具等物半封

一 清五輪一通 九月二日

一 口刺書二紙

江米口上

七段お換り紙

一 清五輪二紙并別幅二紙

一 澤氏に上書并其物に付
 沼澤氏の用書以下各口前
 其物等には色は口前
 口前には色は口前
 口前

石川内田村へ澤氏へ
 送届付候に書し其物に
 別帳に書し澤氏に上書并其

高物書付

- 一 沼澤村一通 九月三日
- 一 口前々上書一通

但書

△ 口前々上書は抄前

口前々上書に付

口前内田村へ澤氏へ別帳

送府公以使礼曹兼改送籍
并别幅

送一以思

“ 抄撰古史の事公の区易に并別幅
に寫す申付し ”

朝鮮漢氏以上書

一 我々及朝鮮正考高麗一曰

昌東一人南人二百餘人内高麗
人數七人一起、永祖去年七月
十二日江原道之内江陵に發
同年十月廿三日江陵に上陸、
漢洋中一人船に在り、七人内
一人之溺死に、五體、我々、
我々二人、之好得、之好得、
石別、日西村、之好得、之好得、
子、東浦人、之好得、之好得、

澤行道丹を以て揚下下
口は是の上を海程并水行を
く下下江澤行道を行たは海
口道所下下上上丹下は海
上系より高年二り丹り海系
出好三月九日善別上系は法
長海程在る中一之船中口海系
くは月程有るを以て
一 我々の言に及り年々如書

報告新おとし書

澤氏名并歳付

歳四十六 キムクイセシ
同日十二 ハシメイトソキ

新丹并書

一 新丹并書
一 橋式

- 一 樽の如様
- 一 樽の如様
- 一 板七十一枚様
- 一 湯之房
- 一 巾着浦様
- 一 巾着浦様
- 一 巾着浦様
- 一 湯の房
- 一 湯の房
- 一 湯の房

以上

廿三月九日

日年十一月廿六日商年二月海日
 船前より自京泊浦上朝鮮人
 六人取之船中船中船中船中
 二り廿九日封列舟舟志浦藻
 為一朝鮮人九人志志とす

昔遠の昔の事と云ふに
田舎、汝汝地と云ふ事
若らる道に下るに
浦の道に下るに
此の道に下るに
此の道に下るに
此の道に下るに

上りて

下りて

大料の地をよむに
此の地をよむに
此の地をよむに

田舎の地をよむに

一 田舎の地をよむに

一 田舎の地をよむに

田舎

田舎の地をよむに
田舎の地をよむに
田舎の地をよむに

以紙前一已度泊浦并封列
商舟志海上深志之朝鮮人
只上中船具前也之半封

一 少連狀二通 十日午二時
一 法律之口上書一通

紙前之紙

大度以様之紙上

一 法道船寫二通并別船寫二通

一 海軍口上中并其船知之半封
或通

紙海船之封書上其船知之日
其船之口上之紙海軍并
別船寫之紙表之了之書
之口上之半封

紙前一已度泊浦并封列唐
舟志浦上深志之朝鮮人送唐

い付後礼曹と年改通箱一宮深
民口と半紙具高紙一半付

一 法源林二宮 十月二十一日

一 口傳考口上半一西

但 口傳考口上半一西

但 口傳考口上半一西

口傳考口上半一西

口傳考口上半一西
朝鮮人送油付後礼曹と年改
通箱と半紙

但 口傳考口上半一西

對列口傳考口上半一西
朝鮮人送油付後礼曹と年改
通箱と半紙

但 口傳考口上半一西

朝鮮漂流民の上書

一 我々朝鮮國高道之田
寧海之漁民は、口舟の上へ船
乗り組力漁高年二月廿六日
吉原島に沈み俄遭颶風故
漕ぎの長船を漂洋中日會
以初氣一日高泊浦に漂ひ忽は
山奥に浦へ落ち、我々抱浦

海に漕ぎの口舟より、我々獲
米水共打ち、我々を誘ひ
送て、三月八日、我々を
口舟に上り、我々を口舟に
封閉し、我々を口舟に
送て、我々を口舟に
送て、我々を口舟に

一 我々宗室、我々宗室

祝言新造と念やう

澤民衣衣菜付

歳二十八

クムハギ

日二十三

エシソシノミ

日二十八

カウトムソシ

日二十三

ゾイセニイ

日二十三

コソソルナミ

日十九

クムラギ

舟具并荷物

船

舟具并荷物

櫓

櫓

帆

巾

水

増七枚

美板三十七枚

阿ふ取三

細六枚

長湯七枚

小細川三枚

魚くま三枚

魚子三枚

折三枚

石川三枚

鬚三枚

唐下三枚

照次三枚

茶匙三枚

加中三枚

細湯八枚

糊三枚

燻三枚

一 湯大正二

一 水楠武

一 心

十月十六日

朝鮮漢文上書

一 我後朝鮮由昔為道之內
蔚志之漢氏之少度公九人之

一 宗絶力德高年二月廿七日
在百中以法公遭難風宗船
共之及被換地方之清軍公
難後漢洋中向廿九日對列
之內度舟志浦之漢志法
一 我宗高後口辱之漢公事
親多秋也之云云

漢氏志天集附

歳二十六

キムフブシ

日二十八

キムクムソギ

日二十九

ニイトグイ

日三十

ニイアキ

日三十一

キムフナシ

日三十二

ニイトゾシノム

日三十三

キムランノグ

日三十四

ニントルイ

日三十五

ハケリシノム

蟹

蟹

キセキ
横と身ノミ

蟹

蟹

蟹

蟹

蟹

一 由張き

一 得三属

一 之入續三十一

一 由津き

一 量十二

一 度丁改換

一 沂き換

一 桐き

一 如也此取次十

一 小童き

一 柳き

一 女三十一

一 女三十一

白年奇女子

少由同代心了及少禮文是信

少由少現切又母改塔何信書多根

柳江八高古為流口流、
い竹今白、
偏中、
古六中、
八高古、
而、
少留

一切支丹、

今、
少、
在、
中、
其、
い事

一古切支丹、
一頃中、

一、
一、
一、
一、

三十一

萬年之世年上自其日心對馬島

橫田島

柳沢島

一、
一、

柳沢島
横田島

古一島

同年十一月廿六日

一、
一、
一、
一、

決咆の海邊に石舟の跡を尋ねて
十三海燈のりし道は此の津波
いかに刻の業文の道おぼしむ
古の高木はとて白き花の影を
清く持し手は白く業文の
清未平とて江の川を
有るは此の村の末
清未平とて江の川を
石舟の跡を尋ねて

ちと社に
清未平とて江の川を
有るは此の村の末
清未平とて江の川を
石舟の跡を尋ねて
ちと社に
清未平とて江の川を
有るは此の村の末
清未平とて江の川を
石舟の跡を尋ねて

日蓮上人の記

寺社大に... 寺社大に... 寺社大に...

拙者願ふ。決死して公命救

後決死打する。穢業。日蓮

高懸。防。事。急。事。仕。為。事

願望中。誠。要。力。と。決。死。又。及

日蓮上人

元禄二年九月六日 宗對馬 口

口

他名丹波

清田

宗對馬

古神女

杉村の家とあるは、そのは、は、は、と、
礼曹の事、
い、竹、の、道、
大、の、の、の、の、
小、の、の、の、の、
山、の、の、の、の、
羊、の、の、の、の、
妻、の、の、の、の、

杉村の家とあるは、そのは、は、は、と、
礼曹の事、
い、竹、の、道、
大、の、の、の、の、
小、の、の、の、の、
山、の、の、の、の、
羊、の、の、の、の、
妻、の、の、の、の、

萬曆七年庚子二月

常憲院議

燕京信

胡辭法... 延江曹... 日... 抄據... 萬曆七年庚子二月

萬曆七年庚子二月

常憲院議

燕京信

因... 修... 多... 身... 个... 英...

心川休方り其年より小半高
并法通るより其間口其業下
上平高其日少代其心其年
記

萬永七度其心二月晦日

萬道洋 将軍

言下其海心其胡其由其其

其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其

萬永七度其心二月晦日

其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其

位使の司事と云ふ記

高取七度書八月八日

貴丹隱海を流し是女口向の流

初志の時

海流の爲に美口極に好

重宝元辰流は山子に力

乙義向は流中にも流るる

念ふに流ると初力の所

半と河の流るる川は

口上半流るる中を流る

口下書は流るる上と下

口下流るる流るる流る

口下流るる流るる流る

口下流るる流るる流る

口下流るる流るる流る

口下流るる流るる流る

美之川と比川半古記

三

卷中隠居書

娘

古高野の山に於ては、唯人の法に
對馬の及ぶ事、馬の山に
ては、竹皮の中より、美の如く
口を以て、此の山に

山

山

山

古高野の山に於ては、唯人の法に
對馬の及ぶ事、馬の山に
ては、竹皮の中より、美の如く
口を以て、此の山に

高林法公信... 爲... 林... 漢民
以上書... 其... 物... 書...
亦... 其... 以上

以爲... 其...

七月...

...

料... 批... 表... 切... 其... 法... 案... 一... 半... 包

日... 用... 書... 本... 多... 份... 發... 其... 批... 上

一... 清... 通... 籍... 一... 批

一... 漢... 民... 口... 上... 書... 示... 其... 具... 其... 物... 一

半... 符... 一... 通

一... 清... 通... 狀... 一... 通

一... 清... 通... 文... 字... 一... 半... 一... 通

七... 月... 換... 其... 批... 上

一... 清... 通... 文... 字... 一... 通

一... 漢... 民... 口... 上... 半... 一... 通

一 日活本(一)

一 日活本(二)

△ 多程と云ふは此の地(島)の
一

“ 沙海島に於て或の大なる池ありて

對列し白泉浦に流るる朝鮮人

道程に對して曹と名取に隨

英別帳 京州 女對列

朝鮮漂流人口書

一 我々及朝鮮國共々高道一内棧

流し候氏に於て八人一人は

十月廿七日に流し出せし

風浪洋中一里廿八分對列

白泉浦に於て漂流せる

一 我々及曹と名取に對列

漢字をきりかへ

一 船

リクワニイ

日二十九

リセニイ

日二十

リハイ

日二十六

キヤグソニイ

日二十七

ガイサニイ

日十九

リイルマニイ

日十八

リクソトニイ

日十八

リククイニイ

船具

一 船一艘

長八
横九

一 橋

一 帆

一 楫

- 一 増六枚
- 一 湯二房
- 一 鬘一枚
- 一 沂一枚
- 一 度下一枚
- 一 由沖三
- 一 竹心巻六
- 一 柳糸三
- 一 くの呉急八

- 一 日巻巻八枚
- 一 巻巻四
- 一 四巻
- 一 巻三

心

廿一月二日

日向書院の巻物の上巻の巻物

数刻の内泉浦に漂ふ初巻

以上書部具考物之牛付

お指し候ふ事候上事候

封刺之内由浦の深急の初船
道而公方後礼曹と多坂の区
指別幅の寫并深民口上事候
若何物一書付

萬年牛度意上事候

口上意候候而の田島候色候
口上意候候而の田島候色候
口上意候候而の田島候色候
口上意候候而の田島候色候
口上意候候而の田島候色候

萬年封刺及候候

一田島候候

日九百三拾九石餘 田力

日九百三拾七石餘 田力

一 日九百三拾九石

百八十九石と百八十九石

一 日九百三拾七石

二百八十九石と二百八十九石

一 日九百三拾五石

日九百三拾五石

二拾石

日九百三拾三石

三拾石

日九百三拾一石

日九百三拾一石

一 日九百三拾八石

日九百三拾八石

日九百三拾八石

日九百三拾八石

一 日九百三拾九石

一 日九百三拾九石

日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石
日九百三拾九石と日九百三拾九石

日九百三拾九石と日九百三拾九石

列女同女七日好別公事一記
大徳行古(也) 林部 鶴見有
田細 括毛 括下 括毛 括
高申 庭河 庭芝 庭一 庭一 括括 括括

七月十日

清春

大正十年七月十日 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市

大正十年七月十日 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市

并 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
中 大正十年七月十日 徳島県 徳島市 徳島市
お 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
高 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
庭 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
高 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
庭 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市

高 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
庭 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
高 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市
庭 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市

封列及換、計の善馬の
所用着、計の中、以の
内、及時の、之の、計
この、中、之
計、之、之、之、之
心、之、之、之、之
向、之、之、之、之
い、之、之、之、之
各、之、之、之、之

新、之、之、之

之、之、之、之

之、之、之、之

之、之、之、之

之、之、之、之

之、之、之、之

之、之、之、之、之、之、之、之

相列は換に才と對馬をとり
以充中城に口業の役目
を充たり、其法に對しては用書
お布中へ傳へ

相列場は急度法に中へ
中へ程の場を今以朝鮮向
に義をいお度寺何女に
清城の口此法に能く
いふ

いふも其地方に由り中へ
相列場を以て清年果に
對馬をとり中へ城に
寫し、通書に中へ城に
とら入に被せし下り
いふ以上

文八月九日
松村三郎

奥田の意に對して

萬曆七年庚子十一月廿四日

高子○山田大守門下
先信○通書認切支丹之改換回
向中○依折○法公○長古○所○改換
○書○向○付○し○り○於○由○長○改換
○と○高○書○つ○せ○改○口○改換○子○長○記

一切支丹之門徒等、一令懈怠

今以書段中の先年、

修金の如き支丹、延活書

私腹中、在、有、也、と、書

數令家中、若、之、と、是、書

今、改、下、如、書、書、改、者、守、也、

い、事

一切支丹、新、族、高、大、書

新、編、書、改、守、也、

一箇申 吉 一箇申 吉
まゝのこゝろ 一箇申 吉
一箇申 吉

心

室永七度 寅の九月 宗 封馬 吉 吉

埃 田 中 吉

柳 込 吉

吉 吉 吉

料 身 送 封 減 望 一 柳 一 認 美 後 吉
上 色

室永七度 寅の九月 吉

一箇申 吉 一箇申 吉
まゝのこゝろ 一箇申 吉
一箇申 吉
一箇申 吉
一箇申 吉
一箇申 吉

清田十三年... 古次古也... 口九次大... 口能文古記

拙者... 抄改... 高田...

袋中... 心止

清田十三年... 清田

公不... 清田十三年

古料...

家承。辛卯年三月九日

四月十日。白。用。書。秋。九

伊。馬。と。伊。比。呂。呂。と。伊。比。呂。呂。と。伊。比。呂。呂。と。

義。洞。塚。沙。彦。臣。及。伊。比。呂。呂。臣。

と。伊。比。呂。呂。臣。辛。卯。年。三。月。九。日。

ら。し。口。筆。伊。比。呂。呂。臣。と。伊。比。呂。呂。臣。と。

中。心。伊。比。呂。呂。臣。と。伊。比。呂。呂。臣。と。

い。伊。比。呂。呂。臣。と。伊。比。呂。呂。臣。と。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

於家樂後秀表之善政之
以也之仁波之切善之
又公之仁波之切善之
志澤之切善之切善之

正月十九日

宗村馬

古料成之切善之切善之
色之切善之切善之切善之

正徳元二年卯歲七月
田畑換色 砂江瀧死
正書内之切善之切善之
秋之切善之切善之切善之
抄換之切善之切善之切善之
古次古也 移持之切善之切善之
記之

商年對列凡換一頁

伊の格年一と共一の如く其高の格を由りて地を今より三下二方より
より一と共一の如く其高の格を由りて地を今より三下二方より

一 田畑を百六十石拾三石束

徳川幕府

口 子百六十石束 田百

口 子百六十石拾三石束

一 例年百十二石

徳川幕府

一 例年百二十七石

口 畑百石

徳川幕府

口 畑百石

徳川幕府

口 畑百石

徳川幕府

口 畑百石

徳川幕府

口 畑百石

徳川幕府

一 例年百三十石

徳川幕府

一 例年

徳川幕府

徳川幕府

從七月既日入海、之懸、其能、也
任、使、海、前、在、急、之、時、也、其、能、也
也、其、日、未、百、之、反、海、之、急、也、在
海、之、前、也、其、能、也

一 溺死武人

古、之、由、許、高、年、七、月、朔、日、因、其、方
大、反、之、時、大、也、通、也、其、能、也、其、能、也
田、知、孫、毛、は、此、外、府、中、其、能、也
其、侍、臣、等、は、可、念、也、其、能、也、其、能、也
は、其、能、也

九月六日 宗封馬

古、之、年、未、切、矣、其、能、也、其、能、也、其、能、也
也、其、能、也、其、能、也、其、能、也、其、能、也
也、其、能、也、其、能、也、其、能、也、其、能、也
也、其、能、也、其、能、也、其、能、也、其、能、也
也、其、能、也、其、能、也、其、能、也、其、能、也

お及の事は成はる事

△ 副母は法に照して一義の利を業の
中へ是の事は法に照して其の
法に照して其の事の中へ其の事
口を昔はと及はる事の中へ其
事の中へ其の事の中へ其の事

田一人の事の中へ其の事の中へ其の事

右の事の中へ其の事の中へ其の事

公義の事の中へ其の事の中へ其の事
らゆき道の中へ其の事の中へ其の事
事の中へ其の事の中へ其の事

心の中へ其の事の中へ其の事の中へ其の事
の中へ其の事の中へ其の事の中へ其の事
及はる事の中へ其の事の中へ其の事
法の中へ其の事の中へ其の事の中へ其の事
中の中へ其の事の中へ其の事の中へ其の事

汗城との女流の教の部名録も
の女流留 海軍中隊の教入
法服身と道と格と一城
別宮と通名格と一宮と道
のまぬれおの字

十月十日

北村の部名

長 武太史格

井太史格

長 武太史格

正徳元年辛卯十一月十八日

ふ限帳の及打舟漢頭より格
のふりあきと格あはりの切紙と
介及の足えと格と一といはるる
半計のふと格と一原といはる
清倉の海軍の利物と格と一といはる
在り半計のりたといはる口徳中

舊是今日半時
黃國十月廿七日
記述

尊

二十五年六月廿七日

肥前國基肄郡

基肄村

右一村方一白郡一

心
右一村方一白郡一

右一村方一白郡一

肥前國基肄郡

二十五年六月廿七日

右一村方一白郡一

正徳九年卯三月

四月廿一日田舎古村松村新田
江戸表松村と評たあ方より
いへ薩列の内海方東と中東
い高と人権と地と海と古と
去年六月十七日松村新田
正徳九年卯三月
起くの海と中東と

い女城下と海の中と
朝鮮と内海列と
正徳九年卯三月
海と地と人
い女城下と海の中と
い女城下と海の中と
い女城下と海の中と
い女城下と海の中と
い女城下と海の中と
い女城下と海の中と

部、村、先、家、元、流、斗、の、別、道、
業、内、道、の、流、為、一、美、の、世、世、世、
抄、深、の、用、書、流、の、後、の、心、業、
四、の、先、親、の、流、の、心、業、及、の、流、
道、の、心、業、元、流、の、心、業、
流、の、心、業、一、美、の、世、世、世、
抄、の、心、業、流、の、心、業、
中、の、心、業、流、の、心、業、
相、接、の、心、業、流、の、心、業、

各、別、の、心、業、流、の、心、業、
一、美、の、世、世、世、
抄、の、心、業、流、の、心、業、
中、の、心、業、流、の、心、業、
相、接、の、心、業、流、の、心、業、
日、西、の、心、業、流、の、心、業、
と、別、書、の、心、業、流、の、心、業、
と、別、書、の、心、業、流、の、心、業、
と、別、書、の、心、業、流、の、心、業、
と、別、書、の、心、業、流、の、心、業、
と、別、書、の、心、業、流、の、心、業、

いふに、中一、妻、母、子、女、を
いふに、事、を、作、る、女、の、口、に、
半、た、記

いふに

中一、妻、母、子、女、を、
いふに、事、を、作、る、女、の、口、に、
半、た、記

中一、妻、母、子、女、を、
いふに、事、を、作、る、女、の、口、に、
半、た、記

サハシの海人ノ家封列海
次中ノ海お改子ノ家ノ者
道ラシ海道ノ家ノ者
いんも海道ノ家ノ者
ノク海ノ道ノ家ノ者
ノ中ノ家ノ者

山無山無
志乃女お月

沙衣

大ヤキヨキキ切成の
キキ包ノ上書

に上ノ家封馬
お浪しの封書
口舌家ノ者ノ海ノ道ノ家
と云

正德二年二月十九日

朝鮮王命使送一白馬夫中
下之漢民七人一艘京師力漢
去年二月六日船遭怪風
漂流旬十日、幸免傾生為、
沖口、漢口漂、忽、船、船、人、
使、者、上、川、進、船、之、音、源、
道、近、之、津、近、船、并、漢、民、口、上、

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

去年秋其物之半封受
日正其高道之內南海之漢氏
九人一般宗组力漢大日如以
遭猛風漂流封列所中浦
漢大日如之漢氏十人一般
宗组力漢大日如如足宗
遭猛風漂流封列之內皇
神也漢大日如也如也如也
宗之祖籍人也如先起也

物類類目三浦作中司
い多少打封其道而長此曹
し多攻少是極ふ事比り
と名成封
と義にと名と在介十九日
と名と名山川は名と心名
左記

以上是

朝鮮正令使道内親史
中京漢民七人一部宗組
去年二月六日致反日月
十日申午頃申屬沖島落
中京上漢民正令使道
長濱口申り申り申り申り
口余設浦地申り申り申り
高橋申り申り申り申り
浦島申り申り申り申り

直搦申り申り申り申り
内親史漢民十九人一部
宗組去年二月六日致
凡封別府申り申り申り
漢民正令使道申り申り
道屬申り申り申り申り
力申り申り申り申り
高橋申り申り申り申り

高橋申り申り申り申り

正月十九日

心以他左書

大料成肌貴も切平波女も手包

法用番紙一函

お揃ち紙一函

△お揃ち紙とて居るは字位抄の自

日用書冊とて居る

一 法用番紙二函

一 漢民口上書並紙丹紙の物一冊

二通

一 法用紙二函

一 口上書七下上書一函

大紙お揃ち紙一

一 法用番紙一函

一 漢民口上書並紙丹紙の物一

半紙三函

一 口浮城(白)

一 口浮城(白)

口浮城(白)

對列(内府申) 互致(高浦) 口浮城(白)

朝鮮人 道(高浦) 對 後(北曹) 互致

互致 并 別幅

地(京列) 四年(平) 口浮城(白) 朝鮮人

道(高浦) 對 後(北曹) 互致 並 後(高浦)

別幅 口浮城(白)

朝鮮(漢) 口浮城(白)

一 我(後) 朝鮮(漢) 互致(高浦) 道(高浦)

南海(漢) 後(漢) 口浮城(白) 朝鮮人

一 朝鮮(漢) 二月(公) 高浦(白) 互致

口浮城(白) 俄(遣) 德(風) 地方(口浮城)

口浮城(白) 洋(中) 德(風) 口浮城(白)

對列の内巨峰浦より海島は
ゆきと浦人おと浪の波は
根米氷お新の外の波は
能多中好

一 我の家も一後四年の女の事記書
新如とし音中ム

深民名并歳付

年三十四

キムハコラキ

同二十六

セウクリビ

同二十八

コシコエナキ

同三十

キムマダニエー

同三十一

キムイセキ

同三十七

イムセシニ

同三十八

キムハシノービ

同三十九

コシシヤギ

同四十

キムクイシダ

同四十一

キムイルサニ

寶手名

一 肥之艘

七廿五ノ上ノ人
岸ノ人守

一 橋式

一 帆式

一 水掉式

一 増口艇

一 蓬六板

一 帆式

一 梅式

一 網式

一 繩式

一 湯式

一 煎式

一 軌式

一 孝徳式

一 かのの孝徳式

一 かの神

一 楠

一 二つ

一 齋

一 庵

一 茨

一 竹

一 山

一 卯二月十日

江津の船に上りて

朝鮮の漢民に上る書

一 我、後朝鮮は昔、高麗の内
南海に漢民の移住、二月十日
人数九人、一船、宗徳、舟漢
のり、六日、七日、漢は八日、
昔の在り、今、このり、約、は、如
俄遭、極、風、地方、は、清、と、ある、後
強、女、と、上、橋、梅、枝、洋、中、は、櫻

日下百部封引府中浦と徳兵
はひに福来出形と外口港に
と行方記有と人記

一 我々宗と及四等と女と帝
記名新如と念中

海民と美成村

年二十九
キムセシラギ

同四十三
コレコグナミ

同三十九
ナヨコムシヤギ

同三十九
キムイシヤギ

同三十四
キムタニヤギ

同二十九
キムイバリ

同十七
キムイセキ

同十七
コレコブニニロ

同十三
コレコナンバイ

日下百部封

一 聖三般 長崎支那
換七人守

一 帆炬二七

一 道三反

一 増三換

一 棒一四

一 帆二法

一 古法三物

一 後三

一 細拾三法

一 細九物

一 鴻二

一 煎一

一 中法二

一 大系統十

一 加心の茶題九

一 靴二

一 押三

一 二つりこ

一 小名こ

一 折こ

一 小庵下き板

一 屋すり一板

一 敷を板

一 竹かこみ

一 突女

一 葎一板 從好三郎と葎五年改

一 葎かこみ

一 葎北一板

一 心上一

卯
二月十日

朝鮮譯氏口上書

一 我、汝朝鮮出入令汝道一也
以夫、中、和、譯氏、口上書、爲

埃一...組...年二月...
は...の...
胡...
い...
お...
十日...
沖...
浦...
少...

...
...
...

一...
...

...

年...

...

日二十四

ムニナナキ

日二十一

キムトコジ

日十八

キムラナシ

日十九

キムセツジキ

日十六

ムニユクエー

日二十二

ムニナナキ

日真并河

日二十

長武文ナナキ

橋或中

但漫大

帆或此

但何大

樽或此

樽或此

水樽或中

洗或此

道或此

海或此

歩或此

一 葉の葉、以て板

一 泊、道、万、一、白

一 か、す、す、一

一 滝、三、板

一 芥、二、板

一 折、一、板

一 灸、う、ぎ、一、板

一 盤、一、板

一 帳、部、一、板

一 口、尻、五、板

一 網、一、帖

一 茶、碗、十、七

一 壺、大、中、一、分

一 加、心、の、茶、器、七、板

一 巾、着、き、一

一 谷、尾、式

一 靴、三

一 長、巾、着、き、一、板

- 一 小柄き
- 一 大柄き
- 一 靴 披掛三
- 一 靴 三
- 一 手 一 把
- 一 縄 首 一 張
- 一 小刀 一 把
- 一 羊 入 一 箇

新
刀
十
八
分

「用書」の「刀」の「刀」は「刀」の「刀」
 刀 十 八 分 一 把 上 手 大 刀
 刀 十 八 分 一 把 上 手 大 刀

「用書」の「刀」の「刀」は「刀」の「刀」
 刀 十 八 分 一 把 上 手 大 刀
 刀 十 八 分 一 把 上 手 大 刀

「用書」の「刀」の「刀」は「刀」の「刀」
 刀 十 八 分 一 把 上 手 大 刀
 刀 十 八 分 一 把 上 手 大 刀

寫下包半封

下包半書

平戶領下海島一朝鮮人送書
從北曹上書後一送島并別幅
寫

封列下海島

古上島下海島口上平好具
前也一書封一送一送也
下封半封信格

上色

平戶領下海島一朝鮮人
送書一付從北曹上書後一送島
一寫海島口上平好具
半封

日新... (Faint bleed-through text from the reverse side)

正徳二壬辰年

右記事、通薩州、若胡、鮮、
海、是、い、村、高、年、一、十、日、七、五、
お、換、と、次、は、又、少、用、為、井、上、
河、内、を、決、り、後、は、書、回、に、上、書、
信、入、り、及、大、深、入、所、由、の、先、
通、二、月、九、日、封、府、の、先、は、い、通、り、
と、義、し、り、に、信、を、通、り、通、大、坂、

右記事、通、薩、州、若、胡、鮮、
海、是、い、村、高、年、一、十、日、七、五、
お、換、と、次、は、又、少、用、為、井、上、
河、内、を、決、り、後、は、書、回、に、上、書、
信、入、り、及、大、深、入、所、由、の、先、
通、二、月、九、日、封、府、の、先、は、い、通、り、
と、義、し、り、に、信、を、通、り、通、大、坂、

正徳二年壬辰年

一筆致書よび之を中上迄
少通抄年薩下中内政方衛
之者三人去年六月朔辭退
之由源列中事之致深矣
之如及砥石三人之由命
之者三人流記曹之致書
猶也副所由之者其家
之由後今月十九日對所上
之由之對所上之由之由
母之致公在道之 之由之由
之由之由之由之由之由
使者之對也之由之由之由
之由之由之由之由之由
猶也探人之由之由之由
力之由也之由之由之由
之由

之由之由
二月廿一日

七 厄相撲 七 秋
林 元 仁 馬 七 秋
大 人 保 加 繁 七 秋
井 上 山 内 七 秋
阿 部 常 海 七 秋
七 厄 相 撲 七 秋

△ 今 以 此 七 秋 十 七 日 寫 法 抄 自 心

口上之卷

松平薩摩守次伊願内御
言 漸 著 者 三 人 去 年 十 六 月 廿 日
凡 胡 群 團 日 候 列 上 徳 光
法 宗 如 存 破 如 三 人 一 日 候 行
梅 齋 記 一 人 存 命 三 行 法 及 把
長 江 曹 多 没 事 爲 自 出 副 傳 書
善 聖 心 家 財 上 下 抄 後 二 月

十九日封府中
の次は公卿
の子弟の味い
の公卿の子弟
中より通教
の子弟の味
いたる形を
修し、要の
通教の子弟
の子弟の味
味におお副
道教。流し
半高の子弟
は上り半高
の子弟の味

書付長初
辨正標人の
言の半付
為は抜己
信差と云い
上

二月

宗封馬の
信差

上色の成り
の半色に
上書

いし

宗封馬の
信差

料の
信差

口利書紙一〇一〇

七尾お換書紙一〇一〇

多岐をいふと行はぬと自に

口利書紙一〇一〇

法久の安藤書紙

紙一〇一〇

久松 尚流書紙

紙一〇一〇

信一〇一〇

口利書紙一〇一〇

口利書紙一〇一〇

一 半 紙 書 紙

一 深 入 口 上 書 紙 并 書 紙 法 久 書 紙

一 付 一 通

一 朝 冠 法 久 深 入 口 書 紙

一 半 紙 一 通

一 口 利 書 紙 一 通

七尾お換書紙一〇一〇

一 中 編 一 寫

一 漢 人 只 上 中 一 并 可 均 仕 安 公 也

一 中 封 上 一 也

一 胡 鮮 也 古 漢 人 一 也 上 一 也

一 中 封 上 一 也

一 口 上 中 一 也

中 封 上 一 也
口 封 上 一 也 漢 一 中 封 上 一 也 漢 一 中 封 上 一 也

薩 州 一 者 從 胡 鮮 國 名 也 上 一 也

曹 一 事 改 一 書 編

世 身 可 上 一 也 中 封 上 一 也 漢 一 中 封 上 一 也

薩 州 一 者 從 胡 鮮 也 上 一 也 漢 一 中 封 上 一 也

一 中 封 上 一 也

漢 人 只 上 一 也 中 封 上 一 也 漢 一 中 封 上 一 也

胡 鮮 國 上 漢 也 一 薩 州 者 只 上 一 也

一 中 封 上 一 也

上包 一 中封 包 紙 上 包 紙 書 也

朝鮮 周 一 漢 列 一 漢 人 一 書 也
書 也 一 書 封

おぼろ ち 紙 上 一 中 封 上 包 紙 書 也

朝鮮 書 上 漢 意 一 漢 意 者 漢 意
付 長 記 曹 一 漢 意 一 漢 意 者 漢 意

上 書 者 也 一 中 封 一 漢 意 者 漢 意
朝鮮 周 書 也 一 書 封

口 封 書 一 口 封 書 也 一 中 封 上 包 紙 書 也

朝鮮 書 上 漢 意 一 漢 意 者 漢 意
口 上 書 者 也 一 中 封 一 漢 意 者 漢 意
長 朝鮮 書 也 一 書 封

漢 流 人 一 書

一 私 後 朝鮮 書 一 地 漢 書 也 一 漢 意 者 漢 意

中 一 漢 意 者 漢 意 一 漢 意 者 漢 意

可なり女成るべき家の子に成り
し事下ふ女半振り下るは是れ
年中下ふ次は家の子成るは
年中下ふ道に別れし事人
の事成るは女成る中は是れ
の事打身下は是れ道に別れ
る事成るは是れ形朝鮮法
中は是れ是れ海方におよぶ人
中の事成るは是れ是れ海方

物に及法は是れは是れ是れ
は振るは是れは是れは是れ
朝鮮人の日道に別れ是れ
し事下ふ朝鮮人の大人道後
道に別れ是れは是れは是れ
道に別れ是れは是れは是れ
地は是れは是れは是れは是れ
也に是れは是れは是れは是れ
日中道に別れ是れは是れは是れ

若もおるくち下換抄は
朝鮮國の海列の中東也
兼中いふたう女太子代冠を
友揚の中心に十なり五安海
旅におお新羅中い海大島
冠をとお昇し冠お中
りすの女を一子も揚
新海をく兼朝鮮をく
記を名く記をく区兼兼也

八月廿一日良利は海
列の海列の地ありて
海とら新羅の十月廿一日
海に如羅列の中東海
列の兼元とく道也

一 大島は海列の中心に
毎日新羅の海と朝鮮
の海と

一 友共子代死骸、女中道に道
肩交ふ、こゝろをさるゝ下
足の上道に、此こゝろから、給付
る、能なる、女に、併敷、月、
こゝろ、女、在、骸、女、口、死、女、女、女、女、
上、道、こゝろ、上、女、女、女、女、女、女、
P、こゝろ、女、女、女、女、女、女、
こゝろ、女、女、女、女、女、女、
一 須指、鞘、一、中、女、持、は、指、指、女、女、

女、向、は、下、女、ら、口、平、一、此、女、指、指、
初、女、女、指、一、鞘、斗、指、女、指、指、女、
い、女、女、女、女、女、女、女、女、女、女、
こゝろ、女、指、指、女、女、女、女、女、女、
女、女、女、女、女、女、女、女、女、女、
川、渡、女、女、女、女、女、女、女、女、女、女、
指、女、女、女、女、女、女、女、女、女、女、
中、女、女、女、女、女、女、女、女、女、女、
女、女、女、女、女、女、女、女、女、女、

一 卷之氣也 漢口所行 竹葉其夜
其多之外 尚用之 亦可以 補血
以下 雖有之 亦

一 私家之方 一 夜心身之效
其多之 亦可以 補血

檢之 檢之法 亦

一 活身一及 促身促

一 由深而淺 子入 意也

一 由活而切 或

一 破散 活之法

一 破散 活之法

一 活指 活之法

一 活計 一 促換也

一 活氣 幸 促換活也

一 活六 拾八 包小數 丁活一 及
玉活九

一 活三 百 共 四 文

江東北宮日記

五月二十日

北表

北表

燒車

中村

燒車

七表

燒車

中村

燒車

江東北宮日記

五月二十日

北表

北表

燒車

中村

燒車

七表

燒車

中村

燒車

江東北宮日記

五月二十日

北表

北表

燒車

中村

燒車

江東北宮日記

五月二十日

江東北宮日記

五月二十日

〇〇

善教の書

正徳九年卯年正月
中村澄庵

大乳支監
池田

少政得中

初辭書古語人

是二一十改入
力進る可也

米一斗

大口魚半尾

乾魚三尾半

耳醬五合

真油一合六勺五毫

白蛤鹽三合三勺五毫

藁二兩二寸五分末表八分五厘

鹽三合三勺五毫

計

辛卯十二月二十七日

右同断

計

辛卯十二月初三日

右同断

計

辛卯十二月初八日

右同断

計

辛卯十二月十三日

右同断

計

辛卯十二月十八日

右同断

計

辛卯十二月二十三日

右同以

計

辛卯十二月二十六日

右同以

計

壬辰正月初三日

右同以

計

壬辰正月八日

右同以

計

壬辰正月十五日

右同以

計

壬辰正月十八日

右同以

計

壬辰正月二十七日

古白以

計

主辰正月二十公

古白以

汁

主辰二月初字

料米拾肆斗

大口臭七尾

乾臭肆束玖尾

耳醬柒升

真油貳升叁合壹夕

白蛤鹽肆升陸合玖夕

藿貳斤伍兩叁錢壹分

鹽肆升陸合玖夕

渡海糧米拾斗

衣資木壹匹

際

壬辰二月日

料米拾斗

衣資木壹疋

計

壬辰二月日

右

生栗壹器

黃栗壹器

餅壹器

大口魚貳尾

清酒壹瓶

計

壬辰正月日

訓導鄭會知

大口魚貳尾

乾柿壹貼連
生栗壹盤
清酒壹瓶

計

壬辰二月十一日 訓導 鄭食知

大邑 伊方 申 音 也

黃 心 上 古 紅 去 聖 德 成

半 東 刺 野

大口 吳

籍 之 事

乾 吳

干 吳 一 事

耳 吳

夕 三 一 事

古 他

胡 麻 池 一 事

白 蛤 殼

蛤 一 半

藜 藿

初 布 一 半

乾 柿

串 柿 一 事

海 糧 米

中 兵 糧 一 事

石 炭 質

石 炭 質 一 事

芳二葉

乾葉一斗

三斗

大肌者小肌者之混交の成りかたを色ニシテ
上書之て半半ニ分ルルカ以テ其は諸事
ウカシカシカ酒(重)

山浦にまゆむの六日身大司

法用青林之色馬を採りて
山浦にまゆむの六日身大司
と云ふは下流より上流
と云ふは中流より上流
半斗は量あり大日人
美人は妻田日記記

是也

一 二一編七段あり数字あり
九十らにあり坪数八の百坪

大いなる山にあり

一 津田久太郎町とき丁目地
西東はる一尺八寸九厘一尺
坪数七十九坪あり

大いなる山にあり

大いなる山にあり
坪数七十九坪あり

山にあり

大いなる山にあり

大いなる山にあり

大いなる山にあり

山道に生るるの草花六白

今及行海濱道使大浦忠丸が
文子母の娘曹と年判年改を
二通編二色二色。大丁長上公計也
高元口張津と女川市馬中後
七二女六白と白と折心以正馬
同色口判書河部君と後と折
折と折と女女折原と長と折と折

口の中と色と長と折と折と折と折と
折と折と折と折と折と折と折と折と
折と折と折と折と折と折と折と折と
折と折と折と折と折と折と折と折と

一 折と折と折と折と折と折と折と折と
折と折と折と折と折と折と折と折と

一 折と折と折と折と折と折と折と折と

一 折と折と折と折と折と折と折と折と

一 古史編卷二(一)

一 古史編卷二(二) 古史編卷二(三)

一 古史編卷二(四) 古史編卷二(五)

古史編卷二(六) 古史編卷二(七)

古史編卷二(八) 古史編卷二(九)

古史編

對馬島中(一)

古史編卷二(十) 古史編卷二(十一)

古史編卷二(十二) 古史編卷二(十三)

古史編卷二(十四) 古史編卷二(十五)

古史編卷二(十六) 古史編卷二(十七)

古史編卷二(十八) 古史編卷二(十九)

古史編卷二(二十) 古史編卷二(二十一)

古史編卷二(二十二) 古史編卷二(二十三)

古史編

古史編

對馬寺中上

上方極意沖城撫能可也
為收中好の次月子の前次海
旁建の勢の女海軍の
多心朝鮮の仁人新歸也
海道中対の海軍の由は
信の長以曹の判の多攻の
之通海の氣名海軍の
平上上対の字の自の多攻の

中中上

大の和撰と海軍の上

に上

對馬寺中上
海軍の沖城撫能可也
為收中好の次月子の前次海
旁建の勢の女海軍の
多心朝鮮の仁人新歸也
海道中対の海軍の由は
信の長以曹の判の多攻の
之通海の氣名海軍の
平上上対の字の自の多攻の

胡持素仕の法に中身の時三女
七日持素仕の

先年々仁文詩道一傳の物語

一長三史の

乙義の流世の記

夜塚の以中身の時成し奉判

し奉改の通稱同法のくく上上

先治のくく洪方又三集記の

平尾の直學所の法中編不

くく対右障の改育の記

中編の改のくくくくの改

くくくくの改のくくくくの改

くくくくの改のくくくくの改

くくくくの改のくくくくの改

くくくくの改のくくくくの改

くくくくの改のくくくくの改

くくくくの改のくくくくの改

抄得る下段、後古辰取
ハヨク何言判、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取

後古辰取、後古辰取

後古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取

後古辰取、後古辰取

後古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取
ハ古辰取、後古辰取

沙草田一 谷子村 又 谷子村
右次古道半村 持家 又 又

對別換色一 意

一 麦二子 白谷 余

大島年一 六月 二子 白谷 水 二

流換 中 二 二

又 又 又 宗 對馬 二

他子 二 白 二 谷 一 換 二 言 二 二 行 二 二

二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

口 上

對別 麦 作 二 後 二 方 二 二 地 二 二 二 二

美 入 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

い故流給く中い百一ひの書
うの書は疾をい此後多故と
中と書い心と

少書

九月十日

江東大徳寺

古抄り書い中付く心同書及心
持し書い月人元は書及心書
尸在書い心書及心

正徳二年正月十日

去心〇十日十日
内度地過上深心一胡餅人例
之通保心お副胡餅心
所長祀曹心書及心書及心
とり心書及心書及心書及心
書及心書及心

以上是

朝鮮の事。道に内附して漢
民十八人。一組。組去。年十一月
去。漢。民。の。事。は。新。風。日。々。定。然。其
志。麻。耶。の。事。は。海。山。浦。の。事。は
法。の。付。口。然。る。事。は。法。の。事。は
と。お。道。の。事。は。余。該。地。に
是。年。事。の。事。は。事。の。事。は
下。の。事。は。副。建。七。海。上。の。事。は
便。の。事。は。事。の。事。は。事。の。事。は

信。の。事。は。力。の。事。は。地。の。事。は。海。民。の。事。は。一。書。文
部。の。事。は。事。の。事。は。事。の。事。は。事。の。事。は
い。の。事。は。事。の。事。は。事。の。事。は。事。の。事。は

宗。對。馬。の。事。は

二。月。廿。一。日。 記。事。の。事。は

大。料。の。事。は。凡。事。の。事。は。海。山。の。事。は。海。山。の。事。は
大。口。の。事。は。書。の。事。は。用。書。の。事。は。記。事。の。事。は
の。事。は。大。口。の。事。は。海。山。の。事。は。海。山。の。事。は

古くは

七五拍子

△多拍子

△四拍子

一五拍子

一三拍子

△通

一四拍子

△七拍子

一五拍子

一三拍子

△通

一四拍子

一三拍子

新(あ)の(あ)念(あ)中(あ)

浮(あ)氏(あ)必(あ)并(あ)衆(あ)討(あ)

歳(あ)四(あ)十(あ)四(あ)

キムクセニイ

日(あ)二(あ)十(あ)二(あ)

キムハニイ

日(あ)四(あ)十(あ)

キムセニイ

日(あ)三(あ)十(あ)九(あ)

キムハニイ

日(あ)三(あ)十(あ)三(あ)

キムセニイ

日(あ)三(あ)十(あ)一(あ)

キムハニイ

日(あ)三(あ)十(あ)一(あ)

キムハニイ

日(あ)二(あ)十(あ)八(あ)

キムハニイ

日(あ)二(あ)十(あ)六(あ)

キムハニイ

日(あ)二(あ)十(あ)六(あ)

キムハニイ

新(あ)氏(あ)必(あ)并(あ)衆(あ)討(あ)

記(あ)之(あ)艘(あ)

キムハニイ

橋(あ)心(あ)

一 帆 帆

一 帆 帆

一 樽 六 挺

一 樽 六 挺

一 由 後

一 美 坂 五 十 段

一 水 俣 五 十 段

一 阿 久 五 十 段

一 石 二 半 一 十 段

一 湯 綱 十 段 把

一 小 網 五 十 段

一 大 板 五 十 段

一 莫 如 五 十 段

一 瓦 五 十 段

一 五 弁 五 十 段

一 小 櫃 五 十 段

一 加 五 十 段

一 柳 五 十 段

一 帆 帆

一 帆 帆

一 樽 六 挺

一 樽 六 挺

一 由 後

一 美 坂 五 十 段

一 水 俣 五 十 段

一 阿 久 五 十 段

一 石 二 半 一 十 段

一 湯 綱 十 段 把

一 小 網 五 十 段

一 大 板 五 十 段

一 莫 如 五 十 段

一 瓦 五 十 段

一 五 弁 五 十 段

一 小 櫃 五 十 段

一 加 五 十 段

一 柳 五 十 段

一 糸之

一 かのの紙抄也

一 巻起八枚

一 茶碗大小と

一 壺大小と

一 巾着大小と

一 火床と

一 火盆と

一 虎子と

一 靴

一 袴

一 襦袢

一 袴

存月女

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

同年十二月廿八日

高其及松年を以て松山嶼也
乃港、若土舟月陽を根口以て
直は若初群由は以海深矣
い付は案内、い及は以中中
い付は初今日以上書お思はれ
古次大也お授り候、并は司書
河部中へ度書候、持し奉り候

此書案内、い付は度大、高其及
い付は若初群由は以海深矣
い付は案内、い及は以中中
い付は初今日以上書お思はれ
古次大也お授り候、并は司書
河部中へ度書候、持し奉り候

いよえ

松年を以て松山嶼也
乃港、若土舟月陽を根口以て
直は若初群由は以海深矣
い付は案内、い及は以中中
い付は初今日以上書お思はれ
古次大也お授り候、并は司書
河部中へ度書候、持し奉り候

船之接七月朔日所獲法出記
物航之數又同也日遭颶風同公
洋中亦有孤帆出記之數
本船之乘務信白之乘務信
伊之信同九日朔離出之數
一日水音傳上漂着法
乃又七舟月隔之傾也
一者十一人一船之乘務信
六月廿日出記之數

船之接七月朔日所獲法出記
物航之數又同也日遭颶風同公
洋中亦有孤帆出記之數
本船之乘務信白之乘務信
伊之信同九日朔離出之數
一日水音傳上漂着法
乃又七舟月隔之傾也
一者十一人一船之乘務信
六月廿日出記之數

新編対馬通記
大坂河内
京都
中よりの上

八月廿一日

沖谷

七尾お披露
大坂河内

日記書

日記書

日記書

日記書
大坂河内
京都
中よりの上

仙石丹海書
清田永海書
一四三

七料系後村一海

比大英...

古本...

英ノ字...

...

同年三月九日

...

...

...

...

...

...

...

中へのはつと茶書に味を引
 今日へのはつと茶書の味を引
 持するのと判入友回空まに
 道一問決むる半村の言を
 とおまふるのと
 味方の言を引
 お年し給うる
 口半村た記
 是

一丁屋敷

三馬
八百坪

津國久高町二月四日書

一町屋敷

昔の茶屋

七十九坪

右の外抱屋敷
 不及中家
 早又支取
 也

西條二子

夏月廿一日

家封馬書

口口口口口口口口

中川 遺跡書道

清田 遺跡書道

天中 遺跡書道

渡邊 遺跡書道

大塚村一軒 遺跡書道

西條二子 每月十日

高年 山國英田代家二子

西條二子 遺跡書道

口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口口口口口口口

一切支丹宗の門徒前、千徳急、
 今、河津改修の出来年一、
 河津の改修に先立、
 河津中、幸、
 数々ある者あり、是又致
 金取の如く、
 一事

一古切支丹の類族、
 高村、

河津、

一河津中、
 まいもの、
 成者あり、

千徳二年十月、
 宗、
 河津

河津の改修に先立、
 河津中、

河津中

吹傳山... 條... 波... 道... 大坂... 長... 抄... 半... 書... 名...

十月廿九日

秋元... 井上... 伊部...

上尾...

...

少旅思の巻上の巻上

少旅思

三月廿四日

新井正次書

口利書換の二通

上殿お換の二通

久松之巻上の巻上

口利書

長崎書換

依久の巻上の巻上

久松之巻上の巻上

久松書換の巻上

口利書換の巻上

信の巻上の巻上

口利書換の巻上

口利書換の巻上

口利書換の巻上

一書編集

一漢氏に書き并に持法指の書

半付抄用

一胡群に書く一書に書く

半付抄用

一只半一冊

七段抄用と成下

一半書に書く用

一漢に書く一書に書く持法指の書半付

抄用

一胡群に書く一書に書く持法指の書

半付抄用

一只一書一冊

「半書に書く」

「口筆に書く」半付抄用持法指の書に書く

片端若長胡群に書く一冊に書く

從江曾善設之書編

唐人只事之上色半付思取之上色或札者

朝鮮國之上色通名之唐海之者
早之半之并之所之由之半付

上色之半付思取之上色或札者

朝鮮國之上色唐海之唐人之書
也之書付

日刺書之上色也之上色半付之上色或札者

朝鮮國之上色通名之唐海之者
書之上色也之上色半付之上色并之上色唐人之上色從初
鮮國之上色也之上色半付

唐津之上色者之上色半付之上色或札者

也之上色也之上色半付之上色并之上色唐人之上色從初
也之上色也之上色半付

也之上色也之上色半付之上色并之上色唐人之上色從初

中管の事の外は書かす所は
 甚だ多しと書成たしと申す
 事は

漂流人の事

一 我々の後船長を以て船内は海に
 孝殿浦に中書者うり度
 拾九席宛去艘に十人の家組
 加賀五人は我々の月共三百

由之に記は列し六月十日
 訪る記並し拾三十七斗湊
 七月朔日如列全船は馬島等
 是れ同日の日に海中に記
 七日に如列の日は浪高き所
 には水も高反りては放日八日
 至夜洋中漂流す事夫れ如列
 流すから梅と換るに如列
 是れ中の如列の如列に如列

、女女、村、女、是、那、中、紀、家、檢
樹、造、る、の、末、後、何、月、に、境、下、如
同、九、日、の、言、何、事、た、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ
候、も、あ、ら、ぬ、事、も、何、事、も、あ、ら、ぬ、事、
我、主、中、野、と、浦、也、と、傳、へ、ら、れ、
徳、井、之、浪、道、一、中、下、何、何、
有、事、下、如、何、事、の、り、後、記、と、持
し、事、ら、る、事、後、記、四、十、日、女、人
并、日、中、之、事、也、一、と、人、と、事、傳、候

、子、子、お、尋、の、村、古、一、第、一、
中、野、之、事、朝鮮、正、也、言、場、
中、下、中、野、也、一、大、事、記、事、候、
い、知、ら、る、事、言、浦、ら、り、十、日、何、事、候、
沖、こ、ら、り、有、事、候、事、也、

一、形、初、鮮、國、胡、船、人、方、り、行、也、
、流、多、事、言、わ、は、い、沙、ら、る、事、候、事、
い、知、ら、る、事、也、後、決、ら、る、事、候、事、

一古水宮浦の深き法の日
毎りの力の浅き版並美実業
ふふふ文用は

一七月十六日牛岩浦の口
對列採の採人中の浅き深
流の深き口身の中
胡舞表後古の法中
延为中 版並増の口

真業水の中 毎日
司法の外初
交後の中
信の中 採有は合
ある

一牛岩浦延の中
裁判の採法
とある

一 大正五年、内朝鮮人等より
朝鮮中及海三瓶桶百、之後
穀三枚の事、之及酒一瓶、
喜行更用法。

一 十月、中日古、其、口、人、中
の、今、水、更、海、陸、に
揚、朝鮮、古、人、元、英、口、海、人、等
の、打、洋、の、の、海、の、後、部、の、海、の、

出項裁法

一 出、朝鮮、古、の、
力、の、穀、白、米、十、俵、本、海、拾、五、
と、下、の、中、後、

一 南、月、の、七、日、古、の、
京、出、の、の、古、海、海、の、
の、の、古、の、古、の、
朝鮮、古、の、古、の、古、の、

所自朝鮮國玉浦口是往月
廿日沙浦浦中取口是往
大浦浦口是往每日取米糧備
實草草の由是の港是往
日廿三日是往大浦口是往
對列估故是往國取口是往
日廿四日是往大浦口是往
日廿五日是往大浦口是往
日廿六日是往大浦口是往
日廿七日是往大浦口是往

入港戶口也
出帆と午と別南浦口是往
往朝鮮國玉浦口是往
海はくは是候と入港候
今日也
外列と申上は及分は
心上

主
光
年
才

日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
字	字	字	字	字	字	字	字	字	字
源	妙	向	高	士	極	味	致	致	致
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
家	家	家	家	家	家	家	家	家	家
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
字	字	字	字	字	字	字	字	字	字
源	妙	向	高	士	極	味	致	致	致
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
家	家	家	家	家	家	家	家	家	家
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

十月廿七日

揚州二卷

揚州

揚州

蘇州府志卷之四

卷之四

蘇州府志

蘇州府志

一 蘇州府志

蘇州府志

一 蘇州府志

蘇州府志

一 蘇州府志

蘇州府志

一 蘇州府志

蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四

蘇州府志

蘇州府志

蘇州府志

蘇州府志

中村池邊

古之記也及下如梳以古式天三寸目
此之誤也史古者天七寸目出之誤也
史古者天目之者誤也有一寸寸之
此係之如也此或也係之如也
力之利也此係池之水也
治古也清今也之而九道中之也
古故也此也一寸之誤也此也古也

いゝ道具痛くは身口も陳二も
お違ひはし身法地古打口も清
波のい上

毎
月
廿
六

大
田
八
郎
下

修
録

此年を以ては内播州二藩を浦
庄とすは高貴とすは法也此者

家門にてもお尋ねの事お改申候事
日清書にてもお尋ねの事お改申候事
お尋ねの事

二徳三王様

松戸三茶屋浦

三日

川越三茶屋浦

五

三茶屋浦

江東

松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦
松戸を以て松戸三茶屋浦

お尋ねの事

二徳三王様

二月日

振列之筆名
以數之有也

五
少書口好也

力
積少成多也

一
九百

大極極也

振列之筆名

後也

四

書
六拾石

如列口好也

世
道行筆名也

六
百拾石

如列口好也

五
百拾石筆名也

外

百
三拾石

運員極筆也

内

三拾石也
古筆
九拾石也
新筆

古
如列書名
浦之積波也
來信數

結也（水及海等）換等也
昔年（中）村（中）有（中）法（中）如（中）海

白地（中）夜（中）

六月廿八

太田（中）八（中）魚（中）解

如（中）雲（中）掌（中）肉（中）孫（中）大（中）板（中）石（中）池（中）忍（中）夜（中）

正（中）夜（中）三（中）分（中）取

小（中）晴（中）又（中）妙（中）取

中（中）日（中）中（中）一（中）持（中）七（中）取（中）取

一 服指（中）物

内（中）物（中）以（中）陣（中）具（中）有（中）
口（中）之（中）物（中）以（中）以（中）持（中）大（中）

一 泥（中）毛（中）拾（中）七（中）取（中）取

泥（中）指（中）泥（中）并（中）取（中）以（中）由（中）取（中）中（中）一（中）

一 泥（中）毛（中）一（中）取（中）取

一 由（中）取（中）物（中）以（中）取

泥（中）解（中）取

一 樽 由一樽

一 如 一七

一 漢 漢人

一 漢 漢

一 日 日

一 芝 芝

仁三年

一 市 市

一 蒲 蒲

一 市 市

一 古 古

一 志 志

一 漢 漢

仁志

右 外

揚州 揚州

池 池

料 料

大口魚貳拾尾

乾魚貳拾尾

耳醬叁斗

真油壹斗

白蛤鹽貳斗壹合

鹽貳斗壹合

藿玖斤拾伍兩玖分

際

壬辰七月日

料米壹石

大口魚伍尾肆条

真油貳升伍合

乾魚伍束

耳醬柒伍合

藿貳斤柒兩玖分捌分

白蛤鹽伍升叁分

鹽伍升叁分

際

壬辰八月初二日

右白以

除

壬辰八月初八日

右白以

除

壬辰八月十日

右白以

除

壬辰八月二十日

右白以

除

壬辰八月日

右白以

除

壬辰九月朔

右白以

除日

壬辰九月望

右白以

除日

壬辰九月三日

右白以

除日

壬辰九月日

右白以

除日

壬辰九月二十日

右白以

除日

壬辰九月白

古白以

際

壬辰十月初二日

古白以

際

壬辰十月初七日

古白以

際

壬辰十月三日

大口魚拾尾

紅柿壹百箇

餅壹兜

熟火鷄壹盤

清酒叁瓶

計

壬辰十月日

訓導口鄭會知

大口菓伍尾

廣菓叁尾

清酒壹瓶

計

壬辰十月日

訓導口鄭會知

渡海糧米拾石

衣資木拾伍匹

際

壬辰十月日

朝鮮出より渡るに必要なる月俵の

高料酒に仕立せ給ふ元金に

二十元ニテ

地方より龍牙の島に渡りて
雙洋中へ海路中へ如く渡りて波
濤の如く舟を半一舟也
持て居切申す申す及に境中へ如
河星の如く舟を半一舟也
後へ舟を半一舟也
申す申す申す

一胡餅人方より河星の島に渡りて

舟を半一舟也
舟を半一舟也
舟を半一舟也

日字	日字	日字	日字	日字	日字	日字	日字
り	り	り	り	り	り	り	り
子	子	子	子	子	子	子	子
又	又	又	又	又	又	又	又

舟を半一舟也

津	宗	女	養	寺	多	拾	年	与	宗	人
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日
日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日	宗	日

送好儿

唐海州清河内布衣与海州拾人

帆十三人宗山由法来为宗

大舟月海

二月八日

时回友上

下

積物

一 羊子八拾債

内貳百九拾三債換テ強之七百八拾債有

一 多子新口拾七丸

内七丸換テ口拾友有

一 苦之権口債

船中百二五拾法保下取

一 口之と物

口之と物之於付之

一 眼指と物

一 振指と物

内と物ハ好ハ三七丸

口と物ハ由更ハ四八丸

一 舟中吉小振指と物

内と物ハ好ハ三七丸

口と物ハ由更ハ四八丸

一 今子と物

内と物ハ好ハ三七丸

口と物ハ由更ハ四八丸

右ノ命江中ヨリ口之と物ハ好ハ三七丸

一 右、半載法の道七日八日、
胡魁由一の運日、
总法同十日、
昭来英、
法り文、

一 七月廿三日、
對列、
一、

の通、
毎日、
白、
新、
用、

一 右、
同、
籍、

流る是は文に法

一 朝鮮喜らば上平を以中上の上洋
中より帆柱を換ふ所にて候口候人
中物より古如朝鮮人方より此
館老の由より古より上平の由
拾九平の由天に有る未如朝鮮古
より古の由中清の由所候人
中候古大上平人より古候候の由

は五因海軍の事なる事

一 南月半の月候事より所候人中候
出立より候事以水支差より所候に
揚り朝鮮國の商人の由人
并 封列候より人の上の人
口お洋より口水色より候事
項戴は是は候事

一 牛尾浦の由候朝鮮國の

吉也白米百拾九由、
新取水申中、
法、

一本島浦海商也

封列採口、
一代、

口、

口、

一、

本帳は拾里迄、
海、
他、
中、
小、
口、
新、

世有口中二日進るは同月日
法中流の中流の流は公の景
三つ後毎日飯米増増実業水
本多し流気有し同月二日
能初六の時ハ法中浦出帆は
有日未一中刻封別依地有
園有し流は是日大官に
物多し設有し大官日何故
は有日大浦と流は是日
大浦の流は夜入港人内
船は流有し初六の時
南浦と流は是日初六の時
川島地ハ流海は是日
法事力入口は是日
は是日流有し流は是日
或は是日流有し流は是日

右ノ流は 流年々云々外

引中上右左渡り

春十月廿日

高田の
三十九日

世道通志

史記

大序は者新説此ら次第数
お遠く道に依りて形あり

よりあつて書いふ

二上巻

私に記述此に十三人
多し人数拾五人
中一付
口分練女も七人
出ぬ一内ら油道
病氣に付ら
年々付あふ人数

口口口口口

每十月廿七日

夜時

心大也

口口口口口

口口口口口

照常度法一課人台朝鮮出

池志之喜物目保之

料米壹石柒斗

大口魚捌尾貳條

乾魚柒束叁尾

斗醬壹斗壹升

真油叁升陸合貳夕

白蛤鹽柒升叁合柒夕

鹽柒升叁合柒夕

藿叁斤拾兩陸叁叁分

際

壬辰七月二十三日

料米拾壹斗

大口魚肆尾壹條

乾菓叁束陸尾半

丹醬伍升伍合

真油壹斤升捌合貳分

藿壹斤拾肆兩陸分陸分

鹽壹升捌合肆分叁厘

白蛤鹽壹升捌合肆分叁厘

際

壬辰八月初七日

右白以

際

壬辰八月廿二日

右白以

際

壬辰八月廿一日

右白

際

壬辰八月廿二日

右白

際

壬辰八月廿三日

右白

際

壬辰九月初一日

右白

際

壬辰九月七日

右白

際

壬辰九月十二日

右白以

際

壬辰九月日

右白以

際

壬辰九月日

右白以

際

壬辰九月日

右白以

際

壬辰十月初二日

右白以

際

壬辰十月初七日

右白以

除

壬辰十月三日

大口臭陸尾

紅柿菜拾箇

餅壹盤

熟鷄壹盤

清酒貳瓶

計

壬辰十月日

訓導鄭僉知

大口臭參尾

廣魚貳尾

清酒壹瓶

計

壬辰十月日

訓導鄭僉知

渡海糧米菜石伍斗

衣資木拾壹匹

際

壬辰十月日

心工

古風衣笠池河

朝鮮白の波巻の古風衣笠池河は波
目派りの波巻の古風衣笠池河は波
目派りの波巻の古風衣笠池河は波

壬辰十月日

階善腹食味

朝鮮人方古風衣笠池河

大口袋

窠(巾)

狼羊

服(巾)

乾袋

干袋(巾)

耳袋

袋地(巾)

真地

胡麻地(巾)

白粉袋

粉刺(巾)

蓑

初巾(巾)

江梅

熟梅(半)

雙結

黃結(半)

廣莫

平月(半)

海海糧米

雪中飯(半)

方次貝木

急田由活(半)

いし

古批(中)の記(三)の紙(三)の(半)包(一)の上書(是)ら
斗(半)の(半)古(半)水(半)の(半)記(半)中(半)の(半)記(半)と(半)記(半)也(半)

正徳二年八月廿六日

慶年八月九日肥前(四)飯下(是)を(隸)
とら(又)大(作)毎(三)田(昌)換(毛)二(半)
乙(義)の(尾)業(四)の(半)付(し)り(半)用(書)
大(ノ)保(加)繁(多)秋(上)に(於)由(た)次(大)進
持(し)る(る)者(次)者(出)下(如)口(の)水(初)め(方)
と(記)也(水)飯(且)又(古)尾(お)換(多)秋
杉(年)梅(さ)る(水)の(半)記(半)也(四)日(半)

善哉。多也。半計。多。口。司。人。
元。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。

商之。肥。市。内。其。能。出。其。文。大。
反。自。括。也。是。也。

一。日。也。也。也。也。也。也。也。也。

也。也。也。也。也。也。也。也。

也。日。也。也。也。也。也。也。也。

物。以。子。也。也。也。也。也。也。也。

一。海。家。也。也。也。也。也。也。也。

一。例。也。也。也。也。也。也。也。

大。也。也。也。也。也。也。也。也。
八。月。九。日。大。使。也。也。也。也。也。
人。馬。也。也。也。也。也。也。也。也。

青。月。也。也。也。也。也。也。也。

清。也。也。也。也。也。也。也。

大科の大方半十石の山石
七半也

一 山石の山石

一 山石の山石

一 山石の山石

一 山石の山石

一 山石の山石

一 山石の山石

